水沢市埋蔵文化財調査センター調査報告書　第14集

下 植 田 遺 跡 Ⅰ

農林漁業用揮発税財源身替農道整備事業に伴う緊急発掘調査

2000

財団法人　水沢市埋蔵文化財調査センター

序　　文

広大な胆沢の地は、古代から豊かな自然に恵まれた土地でした。平安時代初めに編纂された続日本紀には、「水陸万頃の地」と表わされ、人々の生活の舞台でもありました。下植田遺跡は、まさにこうした広く開けた土地であり、そこに住む先人たちは日々の営みの中で多くの歴史・文化遺産を育み、私たちに貴重な財産として伝え残してくれました。

水沢市埋蔵文化財調査センターでは、関係機関のご指導、ご協力のもとに、これらの歴史・文化遺産を大切に保存していくとともに、多くの方々にこうした歴史・文化遺産に接していただけるように公開・情報提供を行なってきました。

本書は、平成11年度に発掘調査しました圃場整備の道路建設に伴う下植田遺跡の調査報告書です。

調査の結果、縄文時代の陥し穴と思われる土坑や平安時代の竪穴住居跡、近世民家と思われる掘立て柱建物跡が確認されました。このような調査の成果は、本市の歴史を正しく理解していく上での貴重な資料となるものです。今後さまざまの形で広く活用していただければ幸いです。なお、本遺跡の調査は北地区を中心に来年度も継続される予定です。

最後になりましたが、調査の円滑な実施にご理解とご協力をいただきました地元住民の方々、ならびに関係機関に対して厚くお礼申し上げます。

平成12年３月

水沢市埋蔵文化財調査センター

所長　朴　澤　正　耕

例　　言

1　この報告書は農林漁業用揮発税財源身替農道整備事業に伴う下植田遺跡の緊急発掘調査の報告である。

2　岩手県の遺跡台帳に登録されている遺跡番号はNE16-0102で、遺跡略号はＳＵＤ－99である。

3　発掘調査は平成11年４月11日から同年6月17日まで行われた。

4　発掘調査および整理作業は佐藤良和、千田幸生が担当した。

5　原稿の執筆及び編集は佐藤良和が行った。

6　調査対象面積および調査実施面積は1,500㎡である。

7　遺構の平面位置は平面直角座標第Ｘ系で表示し、高さは標高値をそのまま使用している。

8　土層の観察にあたっては「新版標準土色帖」（小山正忠・竹原秀雄（1967））を参考にした。

9　遺構名称は溝跡にはSD、井戸跡にはSE、竪穴住居跡にはSI、土坑にはSK、その他にはSXを冠し、検出順に通し番号を付した。

10　現場事務所の造成は㈱秋柴重機に委託した。

11　基準点測量及び遺構配置図作成は㈱アクト技術開発に委託した。

12　空中写真撮影は㈱アクト企画に委託した。

13　現地での発掘調査や室内での整理作業にあたり、地元の方々をはじめとして、以下の関係機関および諸氏からご指導・ご協力を得た。（敬称略）

水沢地方振興局農村整備事務所　㈱秋柴重機　水沢市教育委員会　財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　斉藤　邦雄　佐々木　清文　羽柴　直人

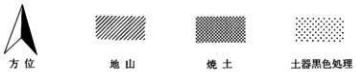
14　使用した地形図は国土地理院発行5万分の1「水沢・北上」及び水沢市発行2,500分の1の地形図を使用した。

15 遺構の図版は原則として1/60の縮尺とし、それ以外の縮尺にはスケールを付した。

16 遺構の平面図はページの上部を北とし、それ以外のものには方位を付した。

17 遺物の図版は原則として1/3の縮尺とし、それ以外の縮尺にはスケールを付した。

18 図版に使用したスクリーントーンは以下の内容を示す。



19 写真図版の縮尺は不定である。

20 野外調査に伴う出土遺物および諸記録・室内整理の諸記録は、水沢市立水沢市埋蔵文化財調査センターに保管してある。

下植田遺跡発掘調査報告書　Ⅰ

農林漁業用揮発税財源身替農道整備事業に伴う緊急発掘調査

目　　次

序　文
例　言

〔本　　文〕

Ⅰ　遺跡の立地と環境 …… 1
Ⅱ　調査の方法 …… 1
Ⅲ　検出された遺構と遺物 …… 1
　1　基本土層 …… 1
　2　遺構と遺物の概要 …… 5
　竪穴住居跡 …… 5
　土坑跡 …… 13
　近世と思われる遺構群 …… 23
　建物跡 …… 23
　溝跡 …… 27
　井戸跡 …… 30
　水場跡 …… 30
　その他不明以降 …… 34
　遺構外出土遺物 …… 37
Ⅳ　まとめ …… 37

〔図　　表〕

表 1　土坑観察表 …… 39
表 2　柱穴観察表 …… 40
表 3　土師器観察表 …… 41
表 4　陶磁器観察表 …… 42

〔図　　版〕

第 1 図　水沢市内遺跡分布図 …… 2
第 2 図　下植田遺跡周辺地形図 …… 3
第 3 図　遺構配置図 …… 4
第 4 図　基本土層 …… 5
第 5 図　SI01竪穴住居跡（1） …… 6
第 6 図　SI01竪穴住居跡（2） …… 7
第 7 図　SI01竪穴住居跡出土遺物（1） …… 8
第 8 図　SI01竪穴住居跡出土遺物（2） …… 10
第 9 図　SI01竪穴住居跡出土遺物（3） …… 11
第 10 図　SI02竪穴住居跡 …… 13
第 11 図　SK01～11土坑 …… 14
第 12 図　SK12～20土坑 …… 15
第 13 図　SK21～27土坑 …… 16
第 14 図　SK28～36土坑 …… 17
第 15 図　土坑分類図 …… 18
第 16 図　土坑配置図 …… 19
第 17 図　近世遺構群遺構配置図 …… 21
第 18 図　SB01建物跡 …… 24
第 19 図　SB02、03建物跡 …… 25
第 20 図　SB04、05、06建物跡 …… 26
第 21 図　SB07建物跡 …… 27
第 22 図　SD01東西溝跡出土遺物 …… 28
第 23 図　SE01、02井戸跡 …… 29
第 24 図　SX01、02水場跡 …… 31
第 25 図　SX01水場跡出土遺物 …… 32
第 26 図　SX02水場跡出土遺物、SX03 …… 33
第 27 図　SX04竪穴状遺構 …… 35
第 28 図　SX04～07竪穴状遺構、
遺構外出土遺物 …… 36

〔写　真　図　版〕

写真図版 1　遺跡全景写真
写真図版 2　SI01竪穴住居跡（1）
写真図版 3　SI01竪穴住居跡（2）
写真図版 4　SI01、02竪穴住居跡
写真図版 5　近世遺構群全景
写真図版 6　SD01東西溝跡、SE01井戸跡
写真図版 7　SE02井戸跡、SX01水場跡
写真図版 8　SX01、02水場跡
写真図版 9　SX03竪穴状遺構
写真図版10　SX04竪穴状遺構
写真図版11　SX05、06竪穴状遺構
写真図版12　SX07竪穴状遺構、
SK01～03　土坑
写真図版13　SK04～07土坑
写真図版14　SK08～11土坑
写真図版15　SK12～15土坑
写真図版16　SK16～19土坑
写真図版17　SK20～23土坑
写真図版18　SK24、25、27、28土坑
写真図版19　SK19、30、31土坑
写真図版20　SK32～34土坑
写真図版21　SK36土坑
写真図版22　作業風景

Ⅰ　遺跡の立地と環境（第１、２図参照）

水沢市は、北上山地西部の丘陵地帯、奥羽山脈から東流する胆沢川の作った胆沢扇状地と、その間にあって中央部を北上川が南流する北上川縦谷の三地形からなっている。胆沢扇状地は胆沢川、北股川～衣川間の広大な扇状地で、扇頂を胆沢町の若柳、市野々として、東方に約20㎞の半径をもって円弧を描いて北上川に及んでいる。扇面は扇頂から等しい距離で等しい傾斜を示す同心円状の等高線を描く典型的な扇状地ではなく、扇状地形成後、多くの変動をうけたようで、扇頂から扇端に傾斜するとともに南部から北部にも次第に高度を減じながら階段状に多くの段丘面が段丘崖をはさんで配列している。これらの段丘群は大別して上位・中位・下位の段丘となり、それぞれ一首坂・胆沢・水沢段丘と称されている。胆沢扇状地は奥羽山脈の隆起に伴い、胆沢川の堆積と侵食によって形成された開析扇状地で、その形成は洪積世と考えられている。市の中央部をしめる北上川縦谷は、北上川の作った段丘面で、姉体低地と段丘崖下に拡がる北上川の沿岸低地とからなる。

下植田遺跡は水沢市真城字下植田地内に所在し、東日本旅客鉄道東北線水沢駅の南南東約4.7㎞のところに位置する。遺跡は大深沢川の沖積によると思われる島状の微高地上に立地し、すぐ東には、姉体低地がひろがる。遺跡は現在畑地となっており、周辺には水田がひろがる。標高は約53mほどである。周辺には他の遺跡の存在は確認されておらず、北へ約2.3㎞のところに古代の集落である林前遺跡が、東南東へ1.3㎞のところに弥生土器の散布地である橋本遺跡が所在するのみである。

Ⅱ　調査の方法

発掘調査は重機による表土剥ぎを行い、その後作業員によって遺構の検出及び精査を行った。各遺構は半切または土層観察用のベルトを残して掘り下げた。土層は写真撮影を行った後、標高値を用いて図面に記録した。一部遺構埋土と地山の区別がつかず、埋土土層の記録をとれず完掘してしまったものもある。完掘後、平面写真撮影を行い、その後平面直角座標第Ⅹ系を用いて図面に記録した。写真撮影には6×7版大型カメラ1台と35㎜カメラ2台を使用した。35㎜カメラにはモノクロ、カラーリバーサルフィルムをそれぞれ使用した。

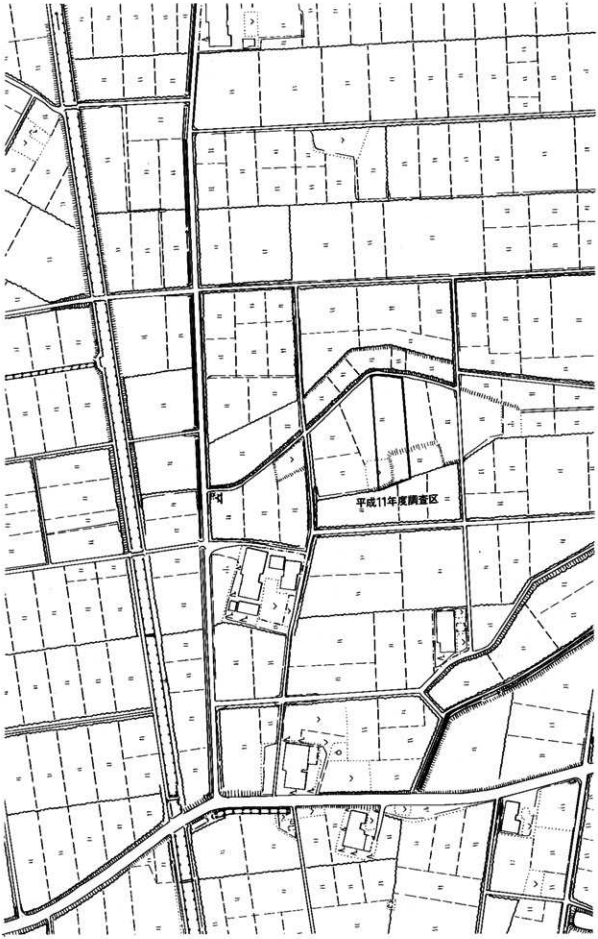
Ⅲ　検出された遺構と遺物

１　基本土層

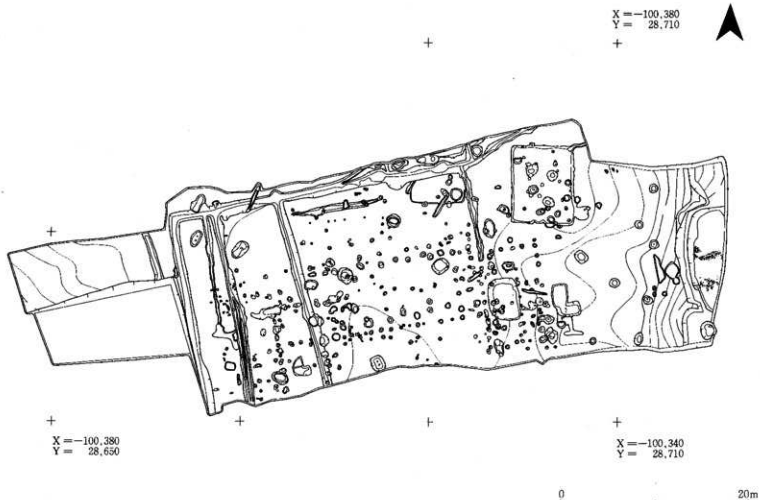
本調査区は現況が畑地であり、耕作土で覆われていた。耕作土は20～30㎝ほどの堆積で、その直下が遺構検出面であった。調査区の東側にいくにつれて徐々に標高が低くなり、東端ではその標高差が約1.5mほどになる。

1 玉貫遺跡
2 膳性遺跡
3 中半入遺跡
4 高山遺跡
5 西大畑遺跡
7 東大畑遺跡
8 白井坂Ⅱ遺跡
9 白井坂Ⅰ遺跡
10 仙人西遺跡
11 仙人東遺跡
13 東袖ノ目遺跡
14 常盤広町遺跡
15 常盤小学校遺跡
16 跡呂井遺跡群
17 杉の堂遺跡
19 雷神Ⅰ遺跡
20 林前遺跡群
21 姉体車堂Ⅱ遺跡
22 下植田遺跡

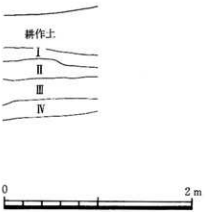
第１図　水沢市内遺跡分布図



第 2 図　下植田遺跡周辺地形図



第3図　遺構配置図



耕作土
Ⅰ　10YR3/3　暗褐色　粘性なし　締まり密
酸化土、礫を多量に含む
Ⅱ　10YR4/4　褐色　粘性なし　締まり密
炭化粒微量含む
明黄褐色土混入
Ⅲ　10YR4/4　褐色　粘性なし　締まり密
炭化粒、礫を多く含む
暗褐色シルト質土を含む
Ⅳ　10YR4/6　褐色　粘性なし　締まり密
暗褐色土混入　砂質土

第４図　基本土層

基本土層として取り上げた地点は、調査区の東落ち際付近である。傾斜があるせいか現耕作土は30～50㎝と比較的厚い。Ⅰ～Ⅳ層はともに盛土整地層と思われ、明褐色土ブロックや暗褐色土ブロック、礫、炭化材などが混入している。

2　遺構と遺物の概要

今回の調査では、古代の竪穴住居跡２棟、近世から近代にかけてと思われる建物跡７棟、溝跡３条及び土坑34基が検出された。遺物は遺構外から石鏃などの石器が、古代の土師器、須恵器、近世から近代にかけての陶磁器等が出土している。

竪穴住居跡

ＳＩ０１竪穴住居跡（第５、６図　写真図版２～４）

調査区の北東に検出された長方形状の竪穴住居跡である。長軸はほぼ北―南を向き、8.52ｍを計測し、短軸は約７ｍを計る。埋土はほとんどが暗褐色土の単層である。壁溝はカマド付近を除くと全周し、北東隅では住居外に延びる溝跡も確認した。埋土は２～４層の分層が見られる。

柱穴と思われる小穴は３つ確認したが、南東側では確認できなかった。

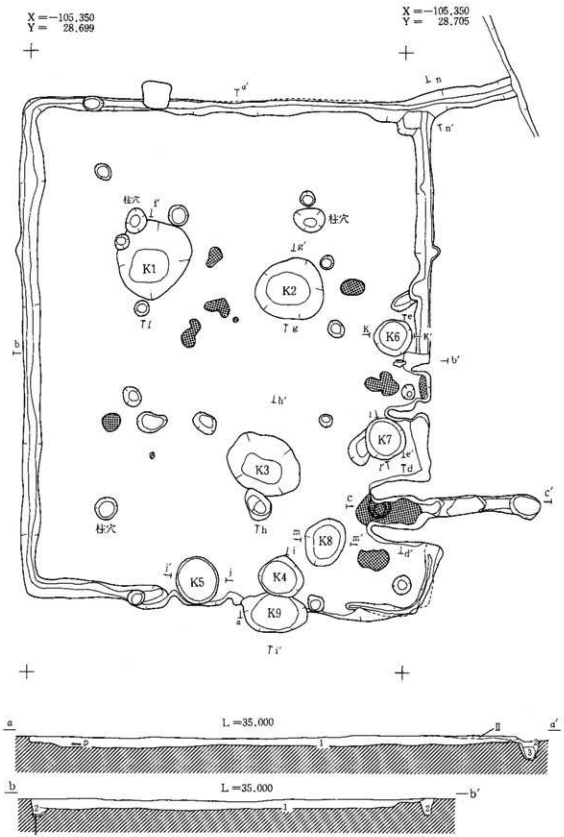
カマドは竪穴住居跡の東壁南東部分に1基（１号カマド）と同じく東壁ほぼ中央付近に１基（２号カマド）、計２基が確認された。１号カマドの袖には芯材と思われる礫は確認できなかったが、明黄褐色土で非常に締まった土（２層）が確認でき、この層が芯材と思われる。火床はカマドの内部ほぼ前面に広がっており、その厚さも最大で約10㎝を計測する。このカマドは煙道を持ち、その長さは約1.8ｍを計測する。２号カマドは煙道を持たず、わずかに袖が確認されたにすぎなかった。このカマドの袖は焼土ブロックや炭化材が混入した土で固められており、芯材には北袖には土師器の甕を用いている。火床と思われる焼土の広がりは確認できるが、その厚さは薄く確信はできない。

今回の調査ではこの竪穴住居内において土坑として9基ほど登録しているが、その深さや底面形状はまちまちで、この竪穴住居に伴う施設なのか、あるいは廃絶直後に掘られたものなのか不明である。

遺物（第７～９図　写真図版22、23）

須恵器の坏や土師器の坏、甕などが出土している。

１から４までは須恵系土器と思われる坏である。１は１号カマド付近から出土したもので、推定口径12.4㎝、推定底径7.4㎝、器高3.0㎝を計測する。胎土はやや緻密で、焼成は悪い。ロクロ成形



第５図　ＳＩ０１竪穴住居跡（1）

c L=35.200 c′

1 7.5YR3/3 暗褐色 粘性中 締まりやや密
炭化材,焼土ブロックを含む
2 10YR3/3 暗褐色 粘性中 締まりやや密
焼土ブロック多量,炭化材少量含む
明黄褐色土少量含む
3 10YR3/4 暗褐色 粘性小 締まりやや密
炭化材,褐色土を含む
4 10YR3/3 暗褐色 粘性大 締まりやや密
黒褐色土,焼土粒を含む
5 10YR2/2 黒褐色 粘性中 締まりやや密
暗褐色土少量混入
6 10YR1/2 黒色 粘性大 締まり粗
焼土ブロック,焼土粒,炭化粒を含む
7 5YR3/4 暗赤褐色 粘性なし 締まり密
炭化粒を少量含む
暗褐色土,黄褐色土を少量含む

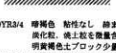
d L=35.200 d′

1 10YR5/4 にぶい黄褐色 粘性なし 締まり密 焼土ブロック多く含む 褐色土混入
2 10YR6/6 明黄褐色 粘性なし 締まり密
3 2.5Y3/2 黒褐色 粘性なし 締まり密 焼土粒,炭化粒少量含む
4 7.5YR4/4 褐色 粘性なし 締まり密 焼土ブロック,炭化粒含む 暗褐色土混入

e e′

1 10YR4/4 褐色 粘性なし 締まり密 焼土ブロック含む
2 10YR5/3 黄褐色 粘性なし 締まり密 焼土ブロック,炭化材含む
3 10YR2/3 黒褐色 粘性なし 締まり密 焼土ブロック多量,炭化材含む
4 10YR3/3 暗褐色 粘性なし 締まり密 焼土ブロック,炭化材少量含む

K1
f L=35.200 f′

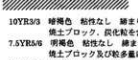


1 10YR3/4 暗褐色 粘性なし 締まり密
炭化粒,焼土粒を微量含む
明黄褐色土ブロック少量混入
2 10YR3/4 暗褐色 粘性なし 締まり密
明黄褐色土を含む
3 10YR5/8 黄褐色 粘性なし 締まり密
暗褐色土を少量含む

K2
g L=35.200 g′

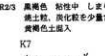
1 10YR3/3 暗褐色 粘性なし 締まり密
炭化粒,焼土粒微量含む
2 10YR3/4 暗褐色 粘性なし 締まり密
焼土粒極微量含む

K3
h L=35.200 h′



1 10YR3/3 暗褐色 粘性なし 締まり密
焼土ブロック,炭化粒を含む
2 7.5YR5/6 明褐色 粘性なし 締まり密
焼土ブロック及び粒多量に混入
3 10YR3/3 暗褐色 粘性中 締まり密
焼土粒,炭化材微量含む
4 10YR4/6 褐色 粘性中 締まり密
焼土粒,炭化材少量含む

K4-K9
i L=35.200 i′



1 10YR2/3 黒褐色 粘性中 しまりやや密
焼土粒,炭化粒を少量含む
黄褐色土混入

K5
j L=35.200 j′

1 10YR2/3 黒褐色 粘性なし 締まり密
焼土粒,炭化粒を含む
明黄褐色ブロックを含む

K6
k L=35.200 k′

1 10YR2/2 黒褐色 粘性中 締まりやや密
焼土粒,炭化粒を多く含む
明黄褐色土粒少量含む
2 10YR4/4 褐色 粘性小 締まり密
焼土粒,黒褐色土をまばらに含む
3 10YR2/1 黒色 粘性中 締まりやや密
焼土ブロック,炭化材を含む

K7
l L=35.200 l′

1 10YR2/1 黒色 粘性大 締まり粗
焼土ブロック,炭化材を含む
黄褐色土ブロックを少量含む

K8
m L=35.200 m′

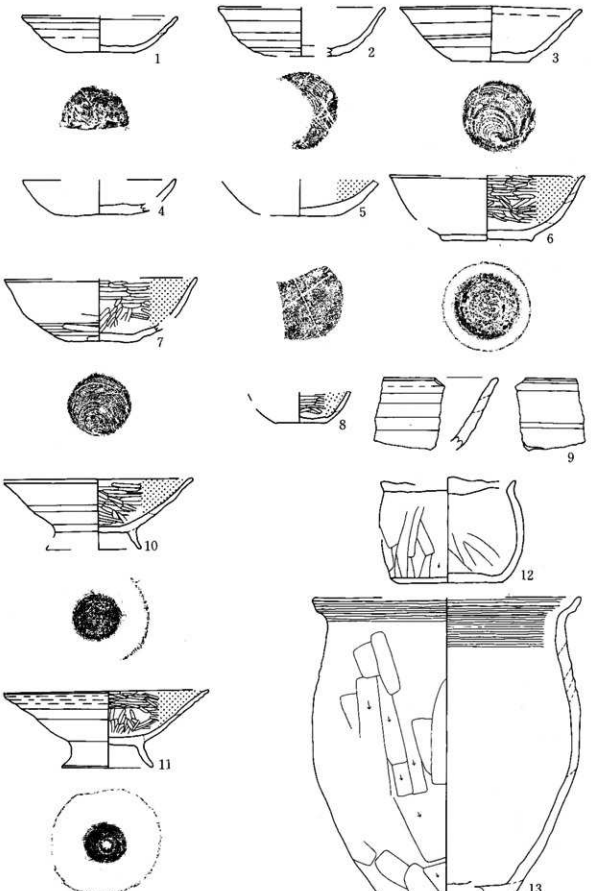
1 10YR2/2 黒褐色 粘性大 締まり粗
焼土粒,炭化粒を少量含む
黄褐色土ブロック少量含む
2 10YR2/1 黒色 粘性中 締まりやや密
黄褐色土ブロック混入

n L=35.200 n′

1 10YR2/2 黒褐色 粘性なし 締まり密
黄褐色土少量含む
2 10YR5/6 黄褐色 粘性なし 締まり密
3 10YR3/3 暗褐色 粘性なし 締まり密
黄褐色土少量含む

第６図　ＳＩ０１竪穴住居跡（２）

で、底部は回転糸切り無調整である。2は２号カマド付近で出土したもので、推定口径13.2㎝、推定底径6.0㎝、器高4.0㎝を測る。胎土はやや緻密で、焼成は悪い。ロクロ成形され、底部は回転糸切り無調整である。3は1号カマドで出土したもので、口径14.6㎝、底径6.2㎝、器高4.5㎝を計測する。胎土は緻密で焼成は非常に悪く、生焼け気味である。ロクロ成形され、底部は回転糸切り無調整である。4は床面付近から出土したもので、推定口径12.2㎝、底径6.5㎝、器高2.9㎝を計測する。ロクロ成形がなされていると思われるが、内外面とも器面荒れが激しく、はっきりとしない。



第７図　ＳＩ０１竪穴住居跡出土遺物（1）

底部は不定方向のケズリが施されているため、切り離し法は不明である。

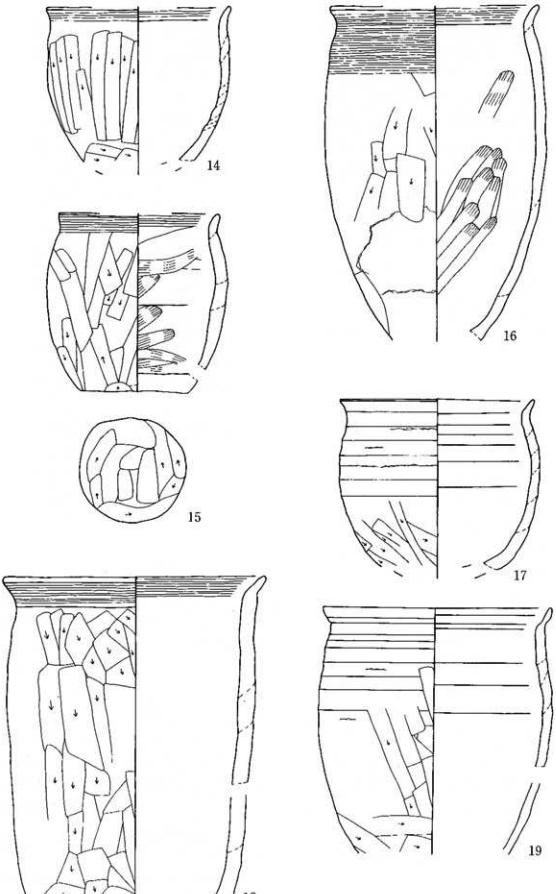
5から8までは土師器と坏と思われるもので、内面はすべて黒色処理がなされている。5は埋土中からの出土で、底径が7.4㎝、現存高が2.9㎝を計測する。胎土は緻密であるが焼成は悪い。外内面の調整は器面荒れが激しく不明である。また、底部には先刻がなされている。6は床面付近からの出土で、推定口径15.6㎝、底径7.4㎝、器高5.3㎝を計測する。胎土はやや緻密であるが焼成は悪い。外面は器面荒れのため調整は不明であるが、内面にはミガキが施される。底部にはケズリが施されているようであるが、切り離し法なのか、あるいは切り離し後の調整なのかはっきりしない。また、底部の外縁部は高台上に若干立ちあがる。7は床面付近からの出土で、推定口径15.2㎝、底径5.1㎝、器高5.2㎝を計測する。胎土はやや緻密であるが、焼成は比較的悪い。ロクロ成形がなされ、外面底部付近にはケズリが施されている。内面にはミガキが施され、底部は回転糸切り無調整である。8は小型の坏と思われる破片で、底径4.0㎝、現存高が2.5㎝である。外面は器面荒れが激しく調整は不明であるが、内面にはミガキが施されている。ロクロで成形がなされたかも不明である。

9は須恵器の破片であるが器種は不明である。現存高は5.8㎝。胎土は比較的緻密で焼成も良い。

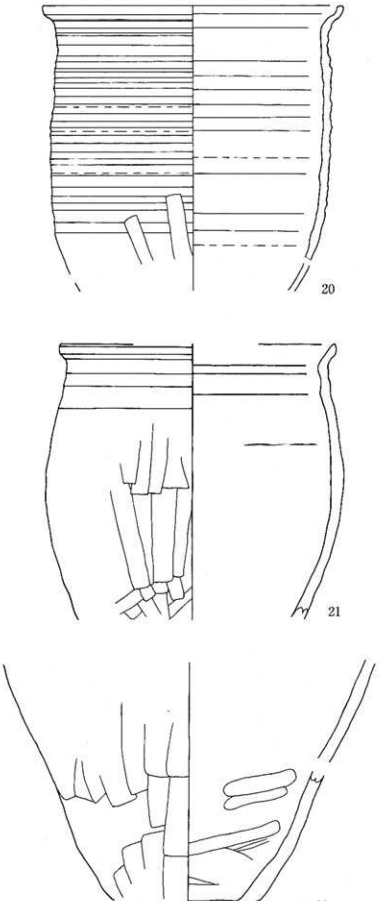
10、11は土師器の高台付き坏である。どちらともロクロ成形で、内面は黒色処理がなされミガキが施される。10は床面付近から出土したもので、口径15.2㎝、推定底径（高台径）7.4㎝、器高5.9㎝のものである。胎土は粗雑で、砂礫が多く混入している。焼成も悪いが器厚は薄くなっている。底部の調整は不明である。11はk7から出土したもので、口径16.4㎝、底径（高台径）7.3㎝、器高6.2㎝のものである。胎土は緻密で焼成は悪いが、器壁は薄い。

12は鉢形を呈する小型の土器である。推定口径10.8㎝、底径8.3㎝、器高8.5㎝を計測する。胎土は粗雑で焼成も悪い。外面にはケズリが施され、内面には指ナデと思われる調整が施される。底部外面にもケズリ調整が施されているようであるが、はっきりした単位は不明である。

13から22までは甕と思われる土器である。13は埋土から出土したもので、推定口径21.0㎝、推定底径9.6㎝、器高24.4㎝を計測する。口縁部は胴部との境で激しく外反し、内湾しながら立ちあがり、やや直立気味に、摘み上げられるような形で口縁端部に至る。胎土は粗雑で焼成も悪い。外面胴部にはケズリが施され、口縁部にはヨコナデが施される。内面胴部は器面荒れのため調整不明である。14はk6から出土したもので、推定口径1.8㎝、現存高12.3㎝を測定する。底部は欠損している。底部から胴部付近までは内湾しながら立ちあがり、胴部中ほどから直立気味に立ちあがる。胴部と口縁部の境は比較的緩やかに屈折し、口縁部は摘み上げられるように外傾する。胎土は粗雑で焼成も悪い。調整は口縁部内外面にヨコナデが施され、胴部外面には上から下へのケズリが施される。底部付近になると右方向のケズリが施される。内面は器面荒れのため調整不明である。15もまたk6から出土したもので、推定口径12.8㎝、底径8.6㎝、器高14.3㎝を測定する。底部は欠損している。底部から胴部中ほどまでは緩やかに内湾しながら立ちあがり、中ほどからは窄みながら立ちあがる。口縁部は直立気味に、摘み上げられるように立ちあがる。胎土は粗雑で焼成も悪い。胴部外面には縦方向のケズリが施され、内面には横方向のユビナデが施される。口縁部は内外面ともヨコナデが施され、底部外面にはケズリが施される。16は埋土中から出土したもので、推定口径16.6㎝、現存高26.8㎝を測定する。底部は欠損している。底部から胴部中ほどまでは内湾しながら緩やかに立ちあがり、最大径を中ほどにもつ。中ほどからは直立気味に立ちあがっていくが、胴部と口縁部の境付近ではやや内湾する。口縁部はつまみあげあれるように外傾しながら立ちあがる。胎土は粗雑で焼成も悪い。胴部外面には縦方向のケズリが施され、内面には縦方向気味のユビナデが施される。口縁部は内外面ともヨコナデが施される。外面に調整は施されるが、粘土塊が付着しており、丁寧な調整では



第８図　Ｓ１０１竪穴住居跡出土遺物（２）



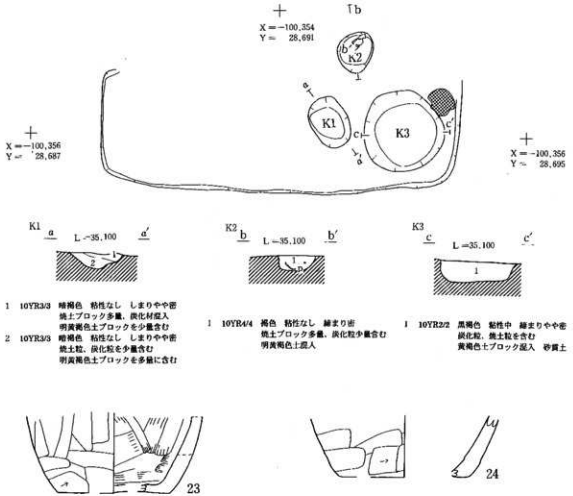
第９図　Ｓ１０１竪穴住居跡出土遺物（３）

ない。17は2号カマド付近からの出土で口径15.5㎝、現存高13.6㎝を測定する。底部は欠損している。底部から胴部中ほどまでは丸みをもって立ちあがり、胴部と口縁部の境付近までは窄まるように立ちあがっていく。口縁部はつまみあげられるように外傾しながら立ちあがる。口縁部と胴部の境は屈曲線のようなものが見られず緩やかに口縁部にいたる。胎土は礫が多く混入し、粗雑である。また焼成もやや悪い。口縁部から胴部上半にかけてはロクロ成形がなされている。胴部下半はケズリが施されており、成形にロクロが使用されたかは不明である。また外面には粘土積み上げ痕が残っている。18もまた2号カマド付近から出土したもので、口径20.8㎝、現存高15.5㎝を測定するものである。底部は欠損している。胴部は直気味に立ちあがるようで、口縁部はつまみあげられるように外傾する。胎土は礫が多く混入し、粗雑で焼成も悪い。口縁部内外面にはヨコナデが施され、胴部外面にはケズリが施される。胴部内面は器面荒れのため調整は不明である。19は1号カマドから出土したもので、口径18.2㎝、現存高19.7㎝で底部は欠損している。底部付近から胴部にかけては内湾しながら立ちあがり、胴部中ほどで最大径をもつ。胴部中ほどから胴部と口縁部の境にかけてはやや内湾気味に立ちあがる。口縁部はつまみあげられるように内湾しながら外方へ立ちあがる。口縁部と胴部の境付近は器壁が薄くなっている。胎土は礫が多くやや粗雑で、焼成も悪い。口縁部から胴上部まではロクロ成形がなされている。その下部には外面にケズリが施されている。20はk7から出土したもので、口径24.1㎝、現存高21.7㎝で底部が欠損している。底部から内湾しながら立ちあがり、胴部中ほどやや下方から直立気味に立ちあがっていく。口縁部は外方に開き、中ほどからやや直立気味につまみあげられるように立ちあがる。胎土は粗雑で焼成も悪い。胴部中ほどよりやや下方から口縁部にかけてはロクロで成形され、その下方は欠損のためはっきりしないが、現存部の一部にケズリが施された痕跡が若干残っている。21は床面付近からの出土で、推定口径22.8㎝、現存高22.2㎝のもので、底部から胴部下方は欠損している。胴部中ほどまでは内湾しながら立ちあがり、胴部中ほどで最大径を持つと思われる。胴部中ほどからはさらに内湾しながら立ちあがり、口縁部はつまみあげられるように外傾する。胎土は粗雑で焼成も悪い。口縁部から胴部上方にかけてロクロ成形の痕跡がはっきりと残っており、その下方（胴部中ほどよりやや上方）にはケズリが施される。22は床面付近から出土したもので底部から胴部下方の破片である。底径8.0㎝、現存高20.3㎝を測定する。胴部は底部から外傾しながらほぼ直線的に立ちあがっていく。胎土は粗雑で焼成も悪い。外面胴部にはケズリが施され、内面底部付近にヘラナデが、胴部にはユビナデが施されると思われる。

ＳＩ０２竪穴住居跡（第10図　写真図版４、23）

SI01竪穴住居跡の西側に検出された。北側はSD01東西溝に切られ、また竪穴住居跡そのものが削平されており、残存状況の悪い竪穴住居跡である。東西の方向で5.6mを測定する。削平のため壁の立ちあがりをわずかに確認できたに過ぎず、埋土は非常に薄い暗褐色土が確認されたのみであった。カマドは確認できなかったが、西壁南側、ちょうどSI01竪穴住居跡1号カマドと同じ付近に焼土の広がりは確認できた。土坑は３基検出されたが、この竪穴住居跡に付属する施設かは不明である。

遺物は甕の底部片がk2土坑から2点出土している。23は推定底径9.0㎝、現存高12.9㎝を測定する。胎土はやや粗雑であるが、焼成はそれほど悪くない。外面にはケズリが施され、内面には底部付近にヘラナデ、胴部にはユビナデが施される。24は推定底径10.6㎝、現存高10.0㎝を測定する。胎土は粗雑で焼成も悪い。外面にはケズリが施されるが、内面は器面荒れが激しいため不明である。



第 10 図 ＳＩ０２竪穴住居跡

土坑跡（第11～14図、写真図版12～21）

34基検出された。SK02、14、15、20、30の５基を除くと、その形状から縄文時代の陥し穴と推測される。以下のように分類を試みる（第15図参照）。

A　円形を基調とし、直径1.1m以下のもの

B　円形を基調とし、よりも規模が大きいもの

C　楕円形、もしくは隅丸長方形を基調とし、長軸が1.3m以下のもの

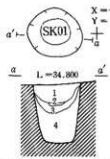
D　楕円形、もしくは隅丸長方形を基調とし、Cよりも規模が大きいもの

E　細長い形状をするもの

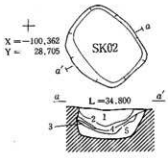
上記A～Dは底面に小穴を持つものと持たないものに分類ができる。

これらの土坑の位置を見ると、規模の小さい土坑（A、C類）は東側のほうに多く見られ、特にA類は東落ち際付近に集中的に、また等高線に並行して作られている。規模の大きい土坑（B、D類）は西側のほうに多く見られる。D―2類に関しては底面の小穴が1つのものと2つのものが見られる。E類はＳＫ19土坑を除いてはその長軸が北東―南西を向いている（第16図参照）。

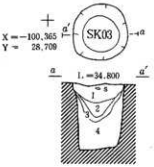
土坑中から遺物は何も出土していないが、SK11付近から石鏃（写真106）が出土している。



1 10YR3/2 黒褐色 粘性なし 締まり密
2 10YR6/6 明黄褐色 粘性なし 締まり密
褐色土混入
3 10YR3/4 暗褐色 粘性なし 締まり密
明黄褐色土混入
4 10YR6/8 明黄褐色 粘性なし 締まり密

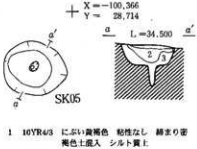


1 10YR2/3 黒褐色 粘性中 締まりなし
2 10YR3/4 暗褐色 粘性小 締まり密
地山ブロックを含む
3 10YR5/6 黄褐色 粘性なし 締まり密
シルト質土
4 10YR3/4 暗褐色 粘性なし 締まり密
黄褐色土混入
5 10YR6/8 明黄褐色土 粘性なし 締まり密

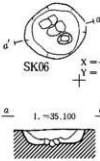


1 10YR2/2 黒褐色 粘性なし 締まり密
2 10YR3/2 黒褐色 粘性なし 締まり密
シルト質土
3 10YR3/3 暗褐色土 粘性なし 締まり密
明黄褐色土ブロックを含む シルト質土
4 10YR6/8 明黄褐色土 粘性なし 締まり密

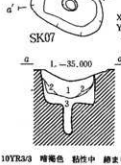
1 10YR3/2 黒褐色 粘性なし 締まり密
2 10YR6/6 明黄褐色 粘性なし 締まり密
黒褐色土混入 シルト質土
3 10YR5/6 黄褐色 粘性なし 締まり密
シルト質土
4 10YR6/8 明黄褐色 粘性なし 締まり密
5 10YR6/8 明黄褐色 粘性なし 締まり密
黒褐色土混入 シルト質土
6 10YR5/8 黄褐色 粘性小 締まり密



1 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘性なし 締まり密
褐色土混入 シルト質土
2 10YR3/4 暗褐色 粘性なし 締まり密
焼土粒を少量含む 砂質土
3 10YR6/8 明黄褐色 粘性なし 締まり密
黒色土混入 シルト質土



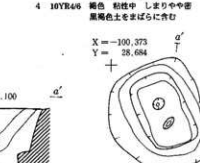
1 10YR4/4 褐色 粘性なし 締まり密
2 10YR3/4 暗褐色 粘性なし 締まり密
明黄褐色土を含む



1 10YR3/3 暗褐色 粘性中 締まり密
2 10YR3/4 暗褐色 粘性中 締まり密
黄褐色土粒を少量含む
3 10YR6/8 明黄褐色 粘性なし 締まり密
黒色土混入 シルト質土

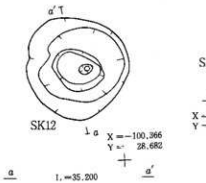
1 10YR2/3 黒褐色 粘性中 しまりやや密
黄褐色土粒を少量含む
2 10YR5/6 黄褐色 粘性中 しまりやや密
暗褐色土粒を少量含む
3 10YR2/2 黒褐色 粘性大 しまりやや粗
黄褐色土粒を少量含む
4 10YR4/6 褐色 粘性中 しまりやや密
黒褐色土をまばらに含む

1 10YR3/4 暗褐色 粘性小 締まり密
白色微粒子を含む
2 10YR4/4 褐色 粘性小 締まり密
3 10YR6/8 明黄褐色 粘性なし 締まり密

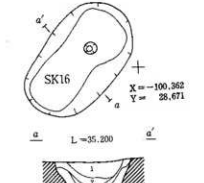


1 10YR2/3 黒褐色 粘性中 締まり密
2 10YR3/3 暗褐色 粘性中 締まりやや密
3 10YR3/2 暗褐色 粘性中 締まりやや密 黄褐色土粒を含む
4 10YR2/4 褐色 粘性中 締まりやや粗 焼褐色土粒を多く含む
5 10YR6/8 明黄褐色 粘性なし 締まり密 黒色土混入 シルト質土

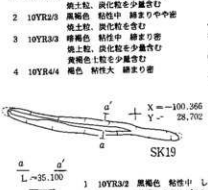
第 11 図 SK01～11土坑



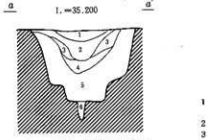
1 10YR3/4 暗褐色 粘性中 締まり密
白色微粒子を少量含む
2 10YR3/3 暗褐色 粘性中 締まりやや密
3 10YR3/4 暗褐色 粘性中 締まりやや密
黄褐色土粒子を少量含む
4 10YR4/4 褐色 粘性中 締まり密
黄褐色土粒子をやや多く含む
5 10YR6/8 明黄褐色 粘性なし 締まり密
6 10YR6/8 明黄褐色 粘性なし 締まり密
黒色土混入 シルト質土



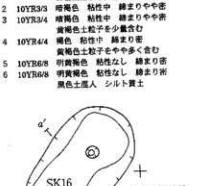
1 10YR3/3 暗褐色 粘性なし 締まり密
焼土粒、炭化粒を少量含む
2 10YR2/3 黒褐色 粘性中 締まりやや密
焼土粒、炭化粒を含む
3 10YR3/3 暗褐色 粘性中 締まり密
焼土粒、炭化粒を少量含む
黄褐色土粒を少量含む
4 10YR4/4 褐色 粘性大 締まり密



1 10YR3/2 黒褐色 粘性中 しまりやや密
黄褐色土をまばらに含む
2 10YR5/6 黄褐色 粘性中 締まり密
黒褐色土をまばらに含む
3 10YR3/4 暗褐色 粘性中 しまりやや密
4 10YR4/6 褐色 粘性中 しまりやや密



1 10YR3/2 黒褐色 粘性中 締まりやや密
白色微粒子、炭化材を少量含む
2 10YR3/4 暗褐色 粘性中 締まり密
3 10YR4/4 褐色 粘性中 締まりやや密
黄褐色土粒子をやや多く含む
4 10YR6/8 明黄褐色 粘性なし 締まり密



1 10YR3/3 暗褐色 粘性なし 締まり密
炭化粒、焼土粒を含む
2 10YR4/4 褐色 粘性なし 締まり密
炭化粒、焼土粒少量含む
3 10YR3/3 暗褐色 粘性なし 締まり密
炭化粒、焼土粒を含む
褐色土塊入
4 10YR5/8 黄褐色 粘性なし 締まり密
5 10YR5/6 黄褐色 粘性なし 締まり密
焼土粒少量含む
6 10YR6/6 明黄褐色 粘性なし 締まり密
シルト質
7 10YR5/6 黄褐色 粘性小 締まり密
砂質シルト

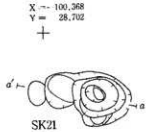
SK14
1 10YR3/3 暗褐色 粘性小 締まり密
焼土ブロックを少量含む
黄褐色土粒を少量含む
2 10YR3/4 暗褐色 粘性小 締まり密
焼土粒、黄褐色土粒を含む
3 10YR4/4 褐色 粘性小 締まり密
黄褐色土粒を少量含む

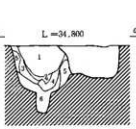
SK15
1 10YR3/3 暗褐色 粘性小 締まり密
黄褐色土粒を少量含む
2 10YR3/4 暗褐色 粘性なし 締まり密
黄褐色土粒を含む
3 10YR4/4 褐色 粘性なし 締まり密
黄褐色土粒を多く含む

1 10YR2/3 黒褐色 粘性中 締まり密
2 10YR3/3 暗褐色 粘性中 しまりやや密
黄褐色土粒を少量含む
3 10YR5/6 黄褐色 粘性中 締まり密
暗褐色土をまばらに含む
4 10YR2/3 黒褐色 粘性中 締まり密
黄褐色土粒を含む
5 10YR4/6 褐色 粘性中 締まり密
暗褐色土粒を微量に含む

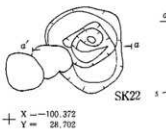
1 10YR3/4 暗褐色 粘性なし 締まり密
焼土ブロック、炭化材を含む
漆喰を含む
2 10YR4/4 褐色 粘性なし 締まり密
炭化粒、焼土ブロックを少量含む
3 10YR4/6 褐色 粘性なし 締まり密
砂質土
4 10YR6/8 明黄褐色土 粘性なし 締まり密
焼土粒、炭化粒を少量含む

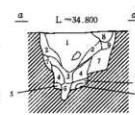
第 12 図 SK12～20土坑



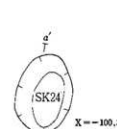


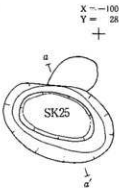
1 10YR2/3 黒褐色 粘性なし 締まり密
黄褐色土ブロックを少量含む
2 10YR3/3 暗褐色 粘性なし 締まり密
炭化粒、焼土粒を少量含む
10YR6/8 明黄褐色土との混土
3 10YR6/6 明黄褐色 粘性なし 締まり密
10YR4/4 褐色土まばらに含む
4 10YR6/6 明黄褐色 粘性なし 締まり密
焼土粒を少量含む
10YR4/4 褐色土との混土
5 10YR5/6 黄褐色 粘性なし 締まり密
地山
6 10YR5/8 黄褐色 粘性小 締まり密

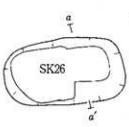


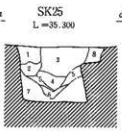


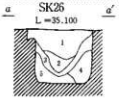
1 10YR2/3 黒褐色 粘性なし 締まり密 焼土粒、炭化粒、礫を含む
2 10YR5/6 明黄褐色 粘性なし 締まり密
3 10YR4/4 褐色 粘性なし 締まり密
4 10YR4/6 褐色 粘性なし 締まり密
5 10YR3/4 暗褐色 粘性小 締まり密 砂質土
6 10YR5/4 にぶい黄褐色 粘性小 締まり密 砂質土
7 10YR4/6 褐色 粘性なし 締まりやや密 砂質土（地山）
8 10YR2/2 黒褐色 粘性なし 締まり密 黄褐色土混入
9 10YR4/6 褐色 粘性なし 締まり密 暗褐色土混入







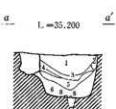




1 10YR2/2 黒褐色 粘性なし 締まり密
炭化粒、焼土粒を含む
2 10YR4/4 褐色 粘性なし 締まり密
炭化粒、焼土粒を少量含む
暗褐色土混入
3 10YR3/4 暗褐色 粘性なし 締まり密
炭化粒少量含む
4 10YR4/4 褐色 粘性小 締まり密
炭化粒を少量含む
5 10YR5/6 黄褐色 粘性杜 締まり密
砂質シルト

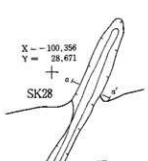
SK25
1 10YR3/4 暗褐色 粘性なし 締まり密 黄褐色土ブロック少量含む
2 10YR5/6 黄褐色 粘性なし 締まり密 暗褐色土ブロックを含む
3 10YR3/4 暗褐色 粘性なし 締まり密 礫、炭化粒、焼土粒を少量含む
4 10YR4/4 褐色 粘性なし 締まり密 炭化粒少量混入、シルト質土
5 10YR5/6 黄褐色土 粘性なし 締まり密 シルト質土
6 10YR4/4 褐色 粘性なし 締まり密 礫を少量含む シルト質土
7 10YR5/8 黄褐色土 粘性なし 締まり密 砂質シルト
8 10YR6/8 明黄褐色土 粘性なし 締まり密 シルト質土

SK26
1 10YR3/3 暗褐色 粘性なし 締まり密
2 10YR2/3 黒褐色 粘性なし 締まり密
3 10YR4/6 褐色 粘性なし 締まり密
4 10YR4/6 褐色 粘性小 締まり密 暗褐色土ブロックを含む
5 10YR5/6 黄褐色 粘性大 締まりやや密 砂質土

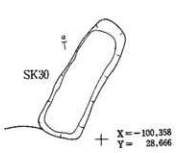


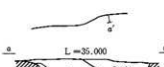
1 10YR2/2 黒褐色 粘性小 締まり密
炭化粒、焼土粒少量含む
明黄褐色土ブロック少量含む
2 10YR5/6 黄褐色 粘性なし 締まり密
暗褐色土少量混入
3 10YR2/3 黒褐色 粘性中 締まりやや密
明黄褐色土少量混入
4 10YR5/6 黄褐色 粘性小 締まり密
5 10YR3/4 暗褐色 粘性大 締まり密
黄褐色土ブロック少量混入
6 10YR5/6 黄褐色 粘性小 締まり密

第 13 図 SK21～27土坑

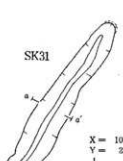


1 10YR2/2 黒褐色 粘性なし 締まり密
2 10YR2/2 黒褐色 粘性なし 締まり密
黄褐色土を含む
3 10YR6/6 明黄褐色 粘性なし 締まり密
黄褐色土を含む





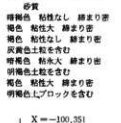
1 10YR3/3 暗褐色 粘性なし 締まり密
炭化粒、焼土粒少量含む
褐色土混入
2 10YR4/4 褐色 粘性なし 締まり密
焼土粒少量含む
3 10YR4/6 褐色 粘性なし 締まり密

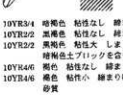


1 10YR2/3 黒褐色 粘性なし 締まり密
2 10YR3/3 暗褐色 粘性なし 締まり密
褐色土ブロックを含む
3 10YR4/4 褐色 粘性なし 締まり密
4 10YR2/3 黒褐色 粘性大 しまりやや密
5 10YR4/4 褐色 粘性なし しまり密
6 10YR4/6 褐色 粘性小 しまりやや密
7 10YR4/6 褐色 粘性中 締まり密

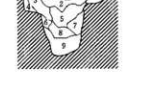
1 10YR3/4 暗褐色 粘性なし 締まり密
2 10YR2/2 黒褐色 粘性なし 締まり密
3 10YR2/2 黒褐色 粘性大 しまりやや密
暗褐色土ブロックを含む
4 10YR4/6 褐色 粘性なし 締まり密
5 10YR4/6 褐色 粘性小 締まり密
砂質

1 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘性なし 締まり密
2 10YR5/3 にぶい黄褐色 粘性なし 締まり密
3 10YR4/4 褐色 粘性なし 締まり密
4 10YR4/6 褐色 粘性なし 締まり密
砂質
5 10YR3/3 暗褐色 粘性なし 締まり密
6 10YR4/6 褐色 粘性大 締まり密
7 10YR4/6 褐色 粘性なし 締まり密
炭黄色土粒を含む
8 10YR3/3 暗褐色 粘性大 締まり密
明褐色土粒を含む
9 10YR4/6 褐色 粘性大 締まり密
明褐色土ブロックを含む

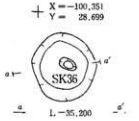




1 10YR3/4 暗褐色 粘性なし 締まり密
2 10YR4/4 褐色 粘性なし 締まり密
3 10YR4/6 褐色 粘性なし 締まり密
4 10YR5/8 黄褐色 粘性なし 締まり密
黒色土粒を含む
5 10YR5/4 黄褐色 粘性小 締まり密
6 10YR5/8 黄褐色 粘性なし 締まり密
暗褐色土を含む
7 10YR4/6 褐色 粘性なし 締まり密
砂質土

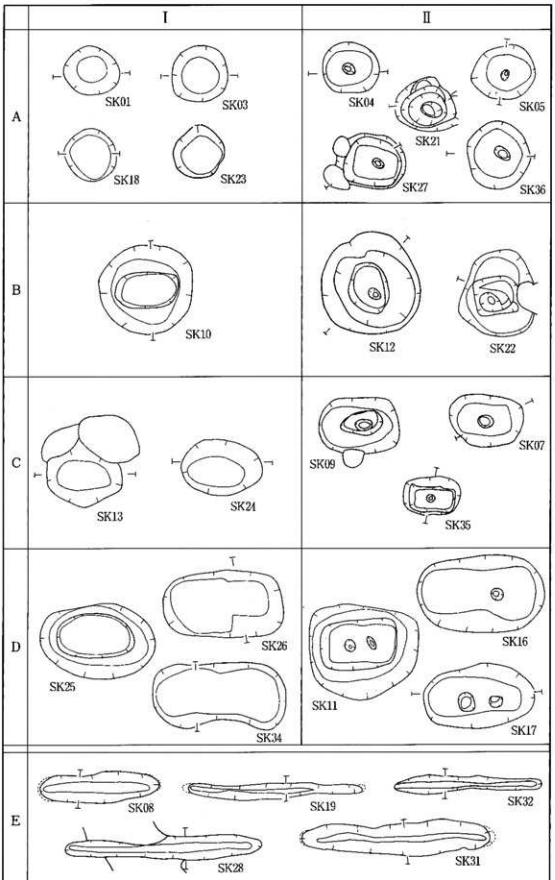


1 10YR2/3 黒褐色 粘性なし 締まり密
褐色土を少量含む
2 10YR5/6 黄褐色 粘性なし 締まり密
3 10YR3/3 暗褐色 粘性なし 締まり密
黄褐色土を少量含む
4 10YR4/4 褐色 粘性なし 締まり密
シルト質土
5 10YR3/3 暗褐色土 粘性大 締まり密

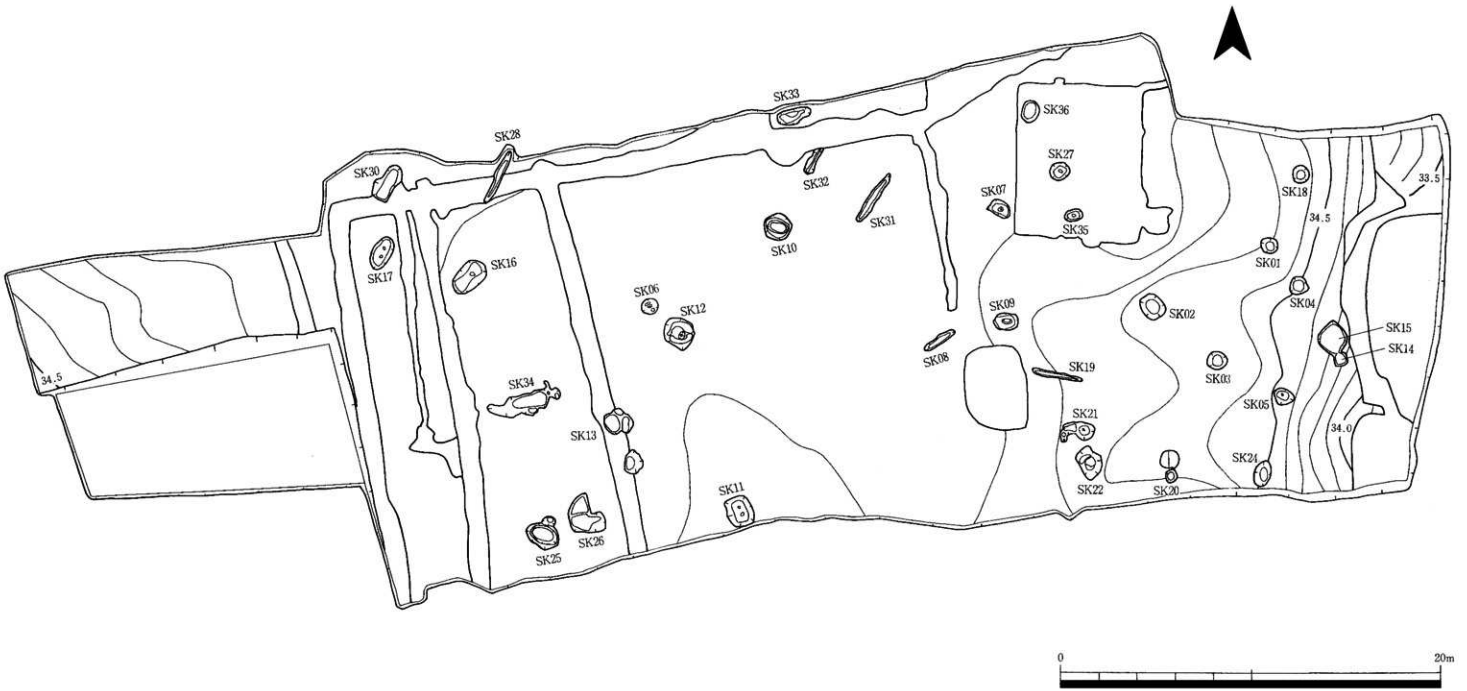


1 10YR2/3 黒褐色 粘性小 締まり密
2 10YR3/3 暗褐色 粘性なし 締まり密
3 10YR2/3 黒褐色 粘性なし 締まり密
4 10YR3/3 暗褐色 粘性中 締まり密
黄褐色土を含む
5 10YR2/2 黒褐色 粘性大 締まり密
6 10YR3/3 暗褐色 粘性中 締まり密
7 10YR4/4 褐色 粘性なし 締まり密
8 10YR4/4 褐色 粘性なし 締まり密
9 10YR4/6 褐色 粘性小 締まり密
10 10YR4/4 褐色 粘性なし 締まり密
シルト質褐色土を含む 砂質
11 10YR5/4 にぶい黄褐色 粘性小 締まり密
砂質土

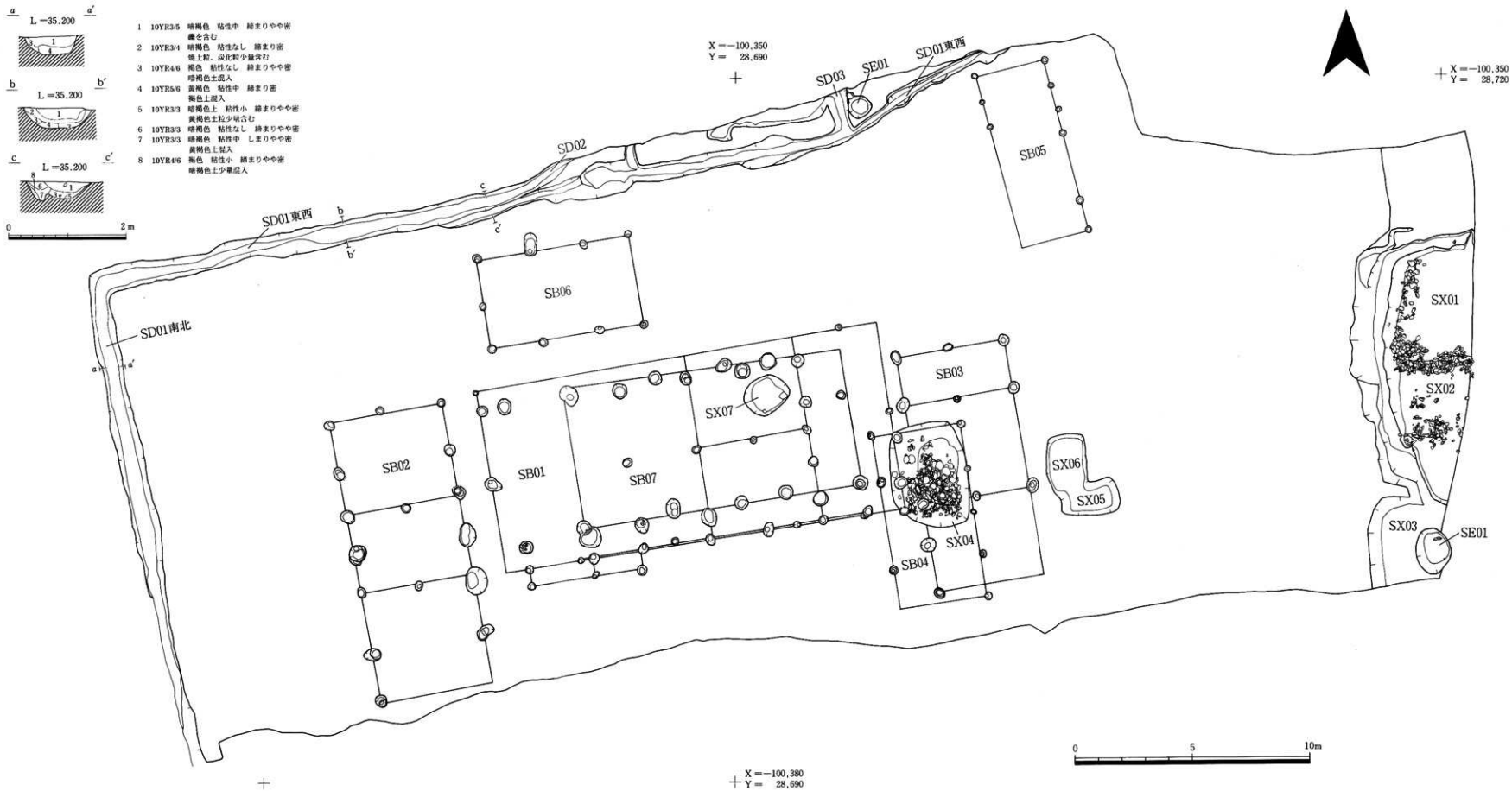
第 14 図 SK28～36土坑


I
II
A
SK01
SK03
SK18
SK23
SK04
SK05
SK21
SK27
SK36
B
SK10
SK12
SK22
C
SK13
SK24
SK09
SK07
SK35
D
SK25
SK26
SK34
SK11
SK16
SK17
E
SK08
SK19
SK32
SK28
SK31

第 15 図　土坑分類図


SK33
SK36
SK28
SK27
SK30
SK32
SK07
SK18
33.5
SK31
SK35
34.5
SK10
SK01
SK17
SK16
SK04
SK06
SK12
SK09
SK02
SK15
SK14
SK08
SK19
SK03
34.5
SK34
SK05
SK21
SK13
34.0
SK24
SK22
SK20
SK11
SK26
SK25
0
20m

第16図　土坑配置図



第17図　近世遺構群遺構配置図

近世と思われる遺構群（第17図　写真図版５、24～26）

掘立て柱建物跡7棟、溝跡3条、水場跡と思われる遺構2基、井戸跡2基その他不明遺構5基が検出された。これらの遺構群は溝跡に囲まれており、互いに関連性のあるもとと推測される。遺物はほとんどが18世紀から19世紀頃の陶磁器であることから、これらすべての遺構は近世の屋敷跡を構成する遺構と考える。以下各々の以降について説明する。

なお、肥前産の陶磁器の時期にあたっては、大橋康二氏の編年観を用いている。

建物跡

ＳＢ０１建物跡（第18図）

調査区のほぼ中央で検出された。桁行1,723㎝、梁間794㎝でほぼ東西方向に長軸をもつ。柱間寸法はさまざまな寸法が使用されている。柱穴の平面形は円形、長楕円形を呈し、埋土観察ではアタリが確認できるものもある。使用した柱穴は38個で、遺物は出土していない。

ＳＢ０２建物跡（第19図）

SB01建物跡の西側で検出された。桁行1,231㎝、梁間480㎝で、ほぼ南北に長軸をもつ。柱間寸法はさまざまな寸法が使用されている。使用した柱穴は14個で、アタリの確認できるものもある。遺物は出土していない。調査区南側に延びる可能性もある。

ＳＢ０３建物跡（第19図）

SB01建物跡の東側で検出された。長軸はほぼ南北方向に持ち、桁行1,036㎝、梁間460㎝である。柱間寸法はさまざまな寸法が使用されている。使用した柱穴は14個で、アタリの確認できるものもある。遺物は出土していない。SB04建物跡とSX04との重複関係にあるが、新旧関係は不明である。また、SB01建物跡とは距離的に非常に近い。

ＳＢ０４建物跡（第20図）

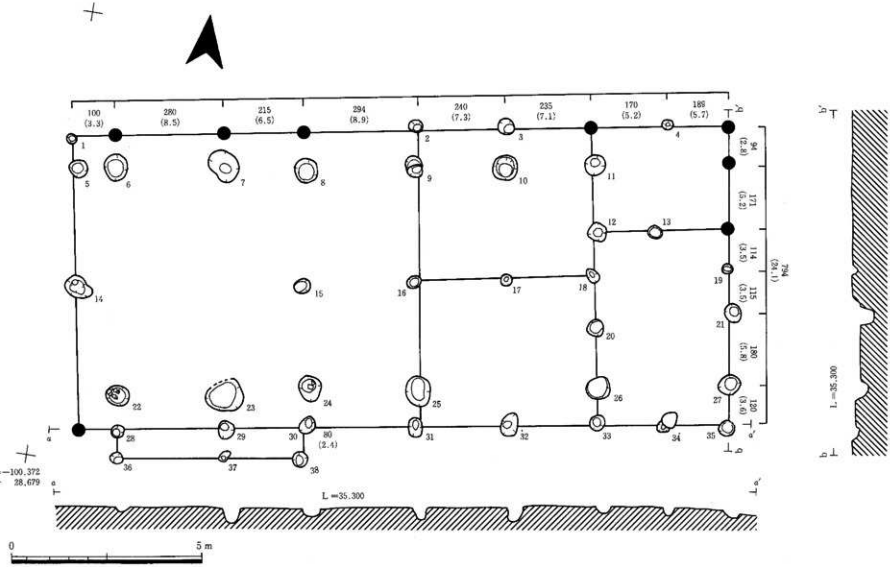
SB01、SB03建物跡、SX04と重なるような形で検出された。新旧関係は不明である。長軸はほぼ南北方向にあり、桁行740㎝、梁間380㎝である。桁行の柱間寸法は67－68間が200㎝（約6.1寸）を計測するものの、他は180㎝（約5.5寸）と一定している。使用した柱穴数は8個で、遺物は出土していない。

ＳＢ０５建物跡（第20図）

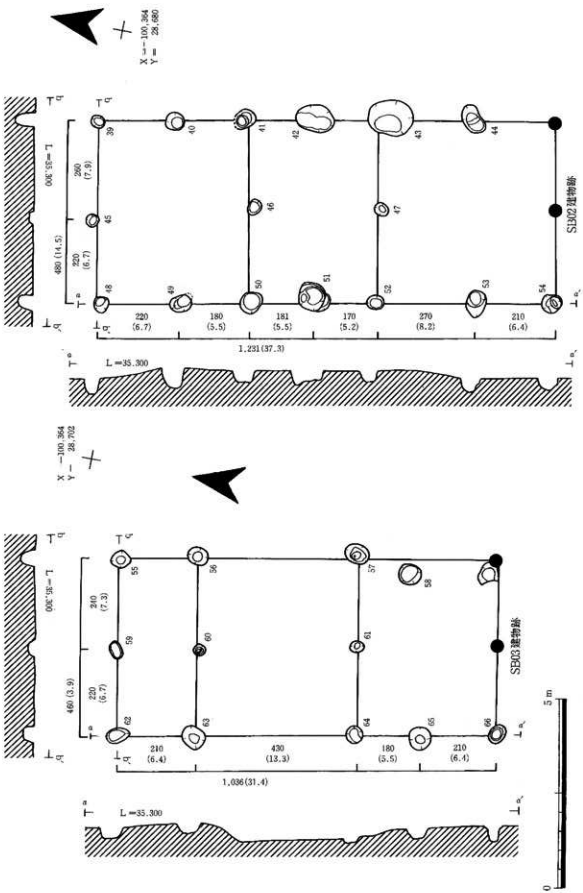
SI01竪穴住居跡と重複して検出された。SB05建物跡のほうが新しい。ほぼ南北方向に長軸を持ち、桁行750㎝、梁間300㎝である。使用した柱穴は9個で、柱間寸法は一定しない。遺物は出土していない。

ＳＢ０６建物跡（第20図）

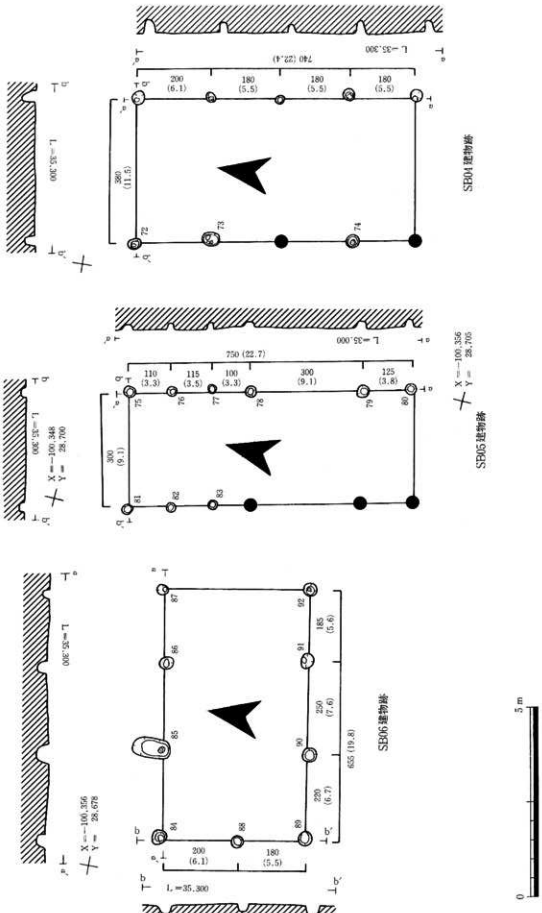
SB01建物の北側で検出された。長軸はほぼ東西を向き、SB01建物跡と並行しているようであるが、時期的な関係はわからない。桁行655㎝、梁間380㎝である。使用した柱穴は9個で、柱間寸法は一定しない。遺物は出土していない。



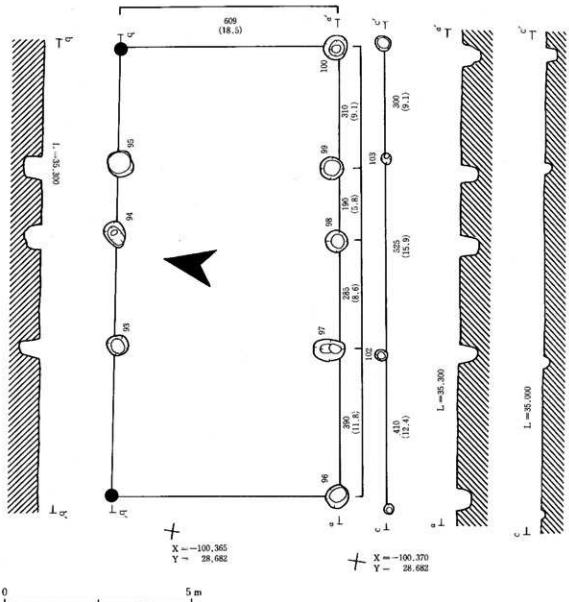
第18図 SB01建物跡



第 19 図　SB02、03建物跡



第 20 図　SB04、05、06建物跡



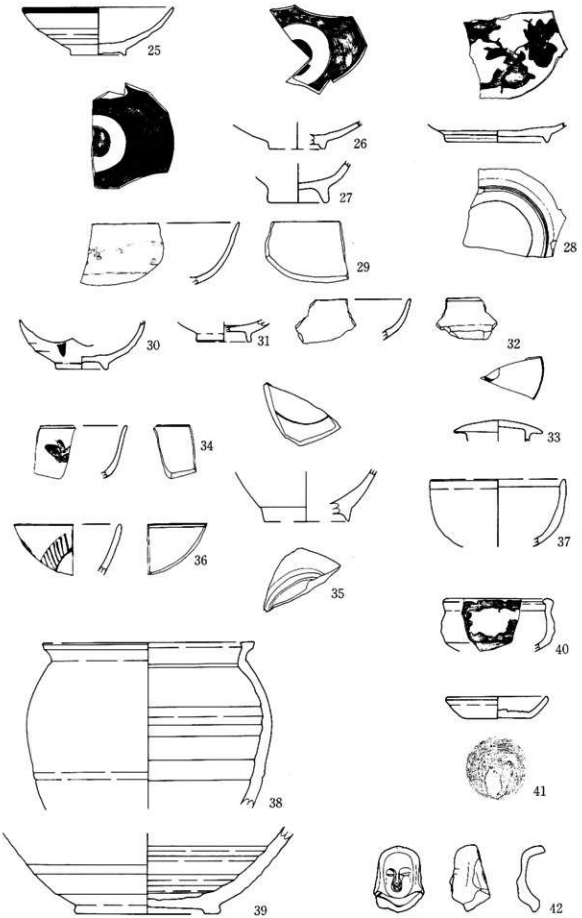
第 21 図　SB07建物跡

SB07掘立柱建物跡（第21図）

SB01建物跡と重複するように検出された。長軸はほぼ東西を向き、桁行1,175cm、梁行き609cmである。使用した柱穴は12個で、柱間寸法は一定しない。遺物は出土していない。

溝跡（第17図参照　写真図版6）

調査区の北側に東西溝が、その延長で中央やや西よりに南北溝が検出された。これらをSD01溝跡と呼称する。南北溝は検出できた部分で長さ約20m、上部の幅が1.2m、底部の幅が0.6m前後を計測する。深さは現時点で0.3m前後である。南北溝の南側は、すぐ西側の水田面により削り取られている。東西溝は検出できた部分で長さ約40m、上部の幅約1.1m、底面の幅が0.4m前後を測定し、一部0.1m前後と狭くなる部分が見られる。東西溝の中央部分からは溝が2つに分かれるようで、北東方向へ分かれると思われる溝は調査区外に延びるため詳細はわからない。この溝をSD02溝



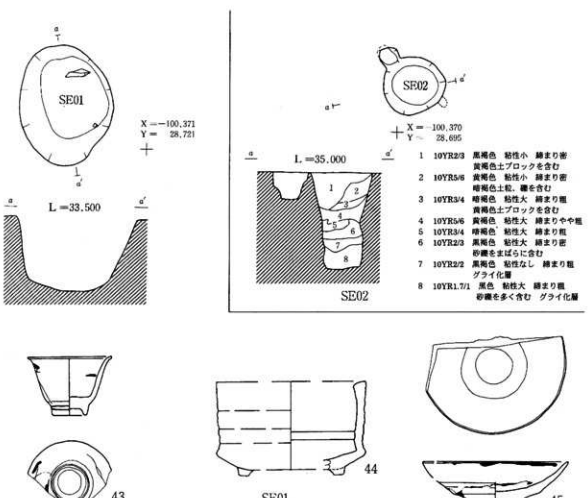
第 22 図SD01東西溝跡出土遺物

跡とした。SD01南北溝はさらに東に延び、途中でほぼ直角に北方向へ分かれる。この北方向に分かれた溝は、規模が南北溝と類似する。この溝をSD03溝とする。SD01南北溝はさらに北北東へ延びるが、調査区外へと延びていくため詳細はわからない。しかしながら規模はこの北方向へ向かう溝との別れ部分から小さくなっていく。

遺物（第22図　写真図版27）

遺物は肥前産陶器、磁器、大堀相馬産陶器、瀬戸産陶胎染付け、磁器、瀬戸美濃産陶器、在地産陶器などが出土している。

25、26は肥前産陶器でⅣ期に属する皿である。27は肥前産陶器のⅣ期前半に属すると思われる碗である。28は肥前産磁器でⅣ期に属する皿である。29は肥前産磁器の色絵で、18世紀後半から19世紀前半頃と思われる碗である。30、31、32は18世紀頃の大堀相馬産陶器である。30が碗、31が皿と思われる破片であるが、32の器種は不明である。33もまた大堀相馬産の蓋と思われる破片であるが、時期は19世紀前葉から中葉頃のものであろう。34は瀬戸産（？）と思われる磁器で、19世紀前半頃のものと思われる。器種は不明である。35、36は瀬戸産の陶胎染付けの碗で、19世紀前半頃の破片と思われる。37は瀬戸美濃産の碗と思われる破片で、18世紀前半頃と思われる。38、39は在地産と思われる破片で、19世紀から20世紀頃の破片と思われる。器種は37が甕、38は鉢と思われるものである。39、40もまた在地産のものと思われ、器種は40が香炉（？）、41が灯明皿と思われる。



第 23 図　SE01、02井戸跡

42は素焼きの顔を形どった土製品である。

他に写真のみの掲載ではあるが、キセル（88）、石匙（89）、削掻器（90）、石製品（91）、砥石（92）が出土している。

井戸跡（第23図　写真図版6、7、27）

2基確認された。

SE01井戸跡は調査区の南東隅で検出された。SX03竪穴状遺構の底面に作られているが、関係があるかはわからない。平面形は楕円形状を呈しており、長軸が南北で1.92m、短軸が東西で1.5mを計測する。半切中にすでに湧水があり、断面が崩落したことから埋土の観察はでず、写真でかろうじて井戸の木枠を撮影できただけだった。

遺物は肥前産の陶器、磁器、瀬戸産の陶器が出土している。45は肥前産の陶器で、Ⅳ期の皿である。43は肥前産の磁器でⅣ期前半の小杯である。44は瀬戸産の18世紀頃の香炉と思われる。

SE02井戸跡はSD01南北溝跡とSD03溝跡の分岐する地点で検出された。平面形は直径約１ｍの円形を基調とする素掘りの井戸跡と思われる。深さは1.56mを計測する。埋土は８層から構成され、７、８層はグライ化していた。遺物は出土していない。

水場跡（第24、25、26図　写真図版7、8、28、29）

調査区東側で2基ほど検出された。掘立て柱建物跡などが検出された微高地から約1.6mほど落ちたところから検出された。

SX01水場跡はSX02水場跡の南側を埋めたてたものと推測され、南北で5.3mほどになる。東西は調査区外に延びるためはっきりしないが、現水田面に掘削されている可能性がある。深さは上場から測定して0.6mとなる。埋土は全体的にグライ化している。SX01水場跡の南壁は礫積みで作られており、崩落防止のためか、横にわたした木製の杭のようなもので固定されていた（写真図版12参照）。SX02水場跡もまた調査区の東端で検出されたため、SX01同様東西の規模はわからず、現水田の造成による掘削を受けている可能性が高い。南北で8.4m、短軸が東西で8.6mを測定する。

SX01水場跡の出土遺物は肥前産磁器、瀬戸産磁器、瀬戸美濃産陶器、在地産陶器、平清水産陶器、産地不明陶器、ガラス製品等が出土している。また、図示できなかったが石鉢なども出土している。

46から49までが肥前産磁器で、46、47が皿、48が小杯、49が徳利と思われる破片である。大橋編年のⅣ期に属すると思われ、48はⅣ期の前半頃に属すと思われる。50から55までは在地産と思われる。50は瓶、52は焙烙と思われる破片で、他のものに関しては器種が断定できない。56は平清水産の碗と思われる破片である。57は18世紀前半頃の瀬戸美濃産の擂鉢と思われる。59は明治以降の碗である。60から62まではガラス製品と思われ、60が蓋、61、62が小瓶と思われる。

この他にかんざし（93）、包丁（94）、鉄製の釘（95）、砥石（96～100）石鉢（101）などが出土している。石鉢は破損してあるものが、礫積みの中から出土している。なお、実測図、法量等は明記せず、写真のみの掲載とした。

SX02水場跡出土遺物としたものは、SX01水場跡の南側から出土したもののみを抽出した。

63は肥前産陶器の碗でⅣ期前半に属すると思われる。64、65は肥前産磁器の皿でⅣ期に属すると思われる。66は在地産と思われるの擂鉢である。67は瀬戸産の磁器の可能性がある小鉢である。時期は19世紀前半頃が推定される。

この他には包丁（102）、砥石（103）が出土しているが、写真のみの掲載とした。

1 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘性なし 締まり密
炭化粒、礫、酸化土含む 砂質土

2 10YR4/4 褐色 粘性なし 締まり密
シルト質土

3 10YR3/3 暗褐色 粘性なし 締まり密
炭化粒、礫を含む 砂質土

4 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色 粘性なし 締まり密
シルト質土

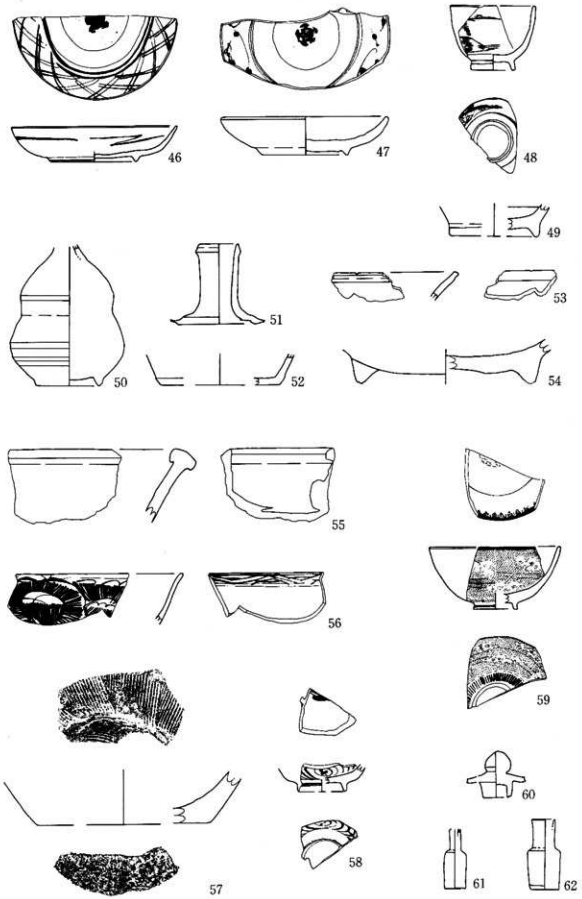
5 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘性なし 締まり密
礫を含む シルト質土

6 10YR3/3 暗褐色土 粘性中 締まり粗
炭化粒、礫を含む シルト質土

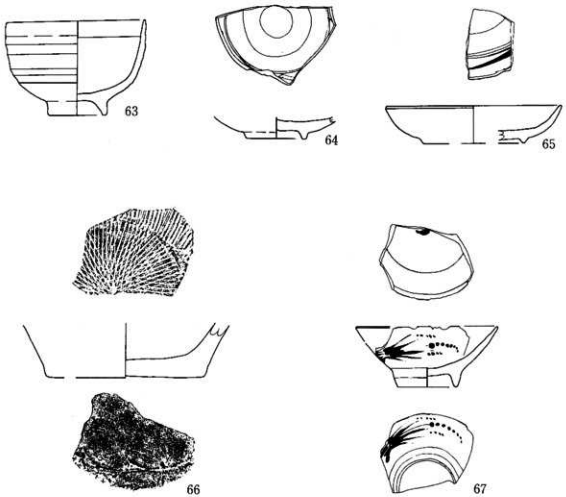
7 10YR2/3 黒褐色 粘性なし 締まり密
遺物を含む 砂礫層

8 10YR3/3 暗褐色 粘性なし 締まり密
木片を含む 礫を多量に含む 砂質土

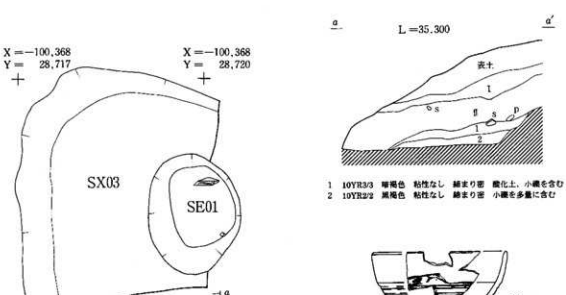
第 24 図 SX01、02水場跡



25 図　SX01水場跡出土遺物



SX02出土遺物



SX03竪穴状遺構

第 26 図 SX02水場跡出土遺物、SX03竪穴状遺構

その他不明遺構

7基確認された。屋敷跡を構成する何らかの遺構と思われるが、その性格ははっきりとわからなかった。

SX03竪穴状遺構（第26図、写真図版9、29）

SX02水場跡のすぐ南側に検出された。底面にはSE01井戸跡が検出されているが、本遺構がこの井戸跡に関係する可能性があるものの、はっきりとはしない。本遺構は調査区の南東端で検出されたため全容がわからず、また東西規模はSX01、02同様現水田面の造成に伴って掘削が及んでいる可能性が高い。調査区で確認し得た規模としては南北に3.7m、東西に3.1m、深さが0.44mであった。底面のレベルではSX01、02とほとんど変わりがなく標高33.4m前後を計測するが、埋土にグライ化は確認されなかった。

遺物は18世紀の大堀相馬産の碗（68）が出土しているほか、写真のみの掲載ではあるが砥石（104）が出土している。68の推定口径は10.6cm、現存高3.8cmである。

SX04竪穴状遺構（第27、28図　写真図版10、30）

調査区の中央やや南西より、SB04掘立柱建物の内部から検出された。SB04掘立て柱建物跡との関連性は不明である。竪穴状遺構として登録はしたが、断面形はどちらかというと浅い擂鉢状を呈していると思われる。長軸は南北に最大で4.5m、短軸は東西に3.2mで、確認面からの深さは0.3m前後である。埋土は明黄褐色土、暗褐色土の2層で構成され、非常に多くの水分を含んでおり、人頭大の礫が多量に混入していた。またこれらの礫とともに陶磁器や石臼などの破片も混入していた。

遺物は肥前産磁器、大堀相馬産陶器、在地産陶器などが出土している。なお石臼は写真のみの掲載である。

69から73までは肥前産の磁器で、69から71までがⅣ期に属するものと思われ、72、73はⅣ～Ⅴ期に属すると思われる。器種は69、71が皿で、70、72が碗、73が蓋と思われる。74から76までは大堀相馬産の陶器で、74が19世紀前葉から中葉と思われる仏飯器、75が18世紀頃の皿、76が18世紀後半頃の皿と思われる。77は在地産の蓋と思われる。78、79はともに明治以降に焼かれた産地不明のもで、78が小杯、79が鉢と思われる破片である。80は19世紀後半から20世紀にかけての常滑産と思われる甕の口縁部の破片で、推定口径55.8cm、現存高2.4cmを計測するものである。

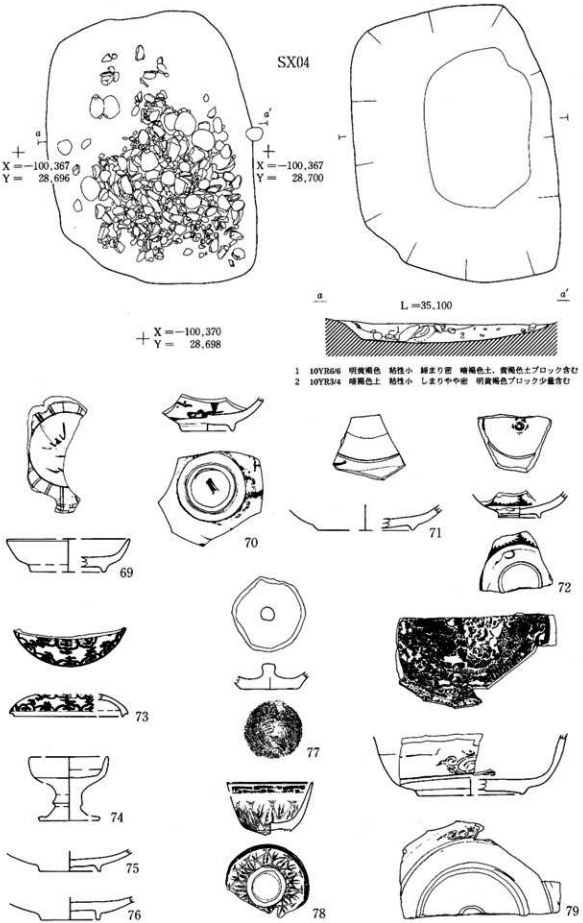
このほかに砥石（108）、鉄製の釘（109）が出土しているが、写真のみの掲載としている。

SX05竪穴状遺構（第28図　写真図版11）

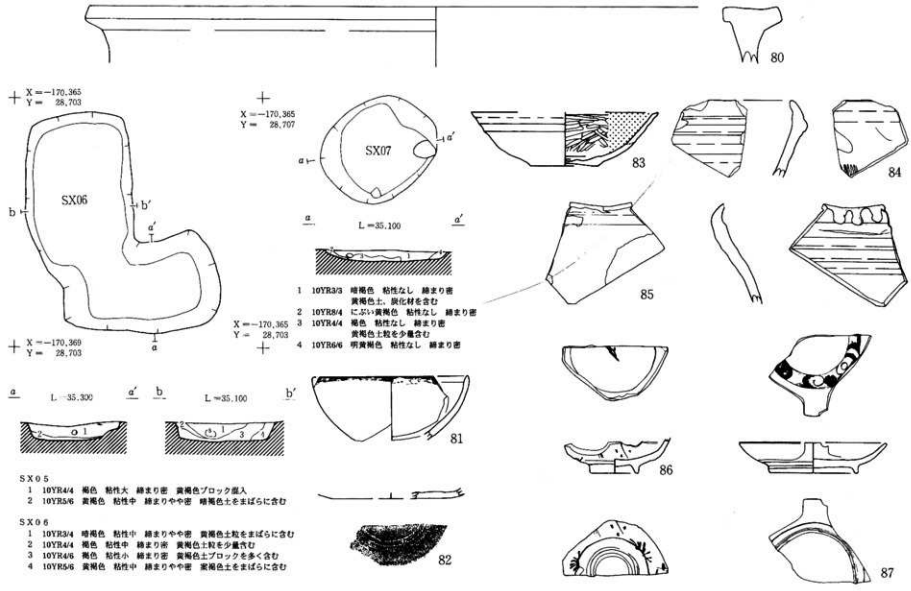
SB03のすぐ東側に検出された。北西隅がSX06と重複している。新旧は不明である。長軸は東西方向で2.5m、短軸は南北方向で約1.5mほどで、深さは検出面から約0.3mほどである。埋土は褐色土、黄褐色土の2層で構成され、粘性は比較的強く、締まりも密である。黄褐色土ブロックや暗褐色土の混入が見られる。遺物は出土していない。

SX06竪穴状遺構（第28図　写真図版11）

SX05竪穴状遺構のすぐ北側に検出された。南側はSX05竪穴状遺構と重複している。新旧関係はつかめなかった。長軸は南北で約2.5mと推測され、短軸は東西で1.7m、深さは検出面から約0.3mほどである。埋土はⅣ層から構成されている。短軸の長さがSX05竪穴状遺構よりも長いものの、比較的類似した構造を示している。遺物は出土していない。



第 27 図 SX04竪穴状遺構



第28図 SX04～07竪穴状遺構、遺構外出土遺物

SX07竪穴状遺構（第28図　写真図版12）

調査区のほぼ中央、SB01、07掘立柱建物跡の内部で検出された。掘立柱建物跡の関連性は不明である。平面形は北東―南西に長軸を持つ楕円形状を呈し、竪穴状というよりも擂鉢状に近い形状を示している。長軸が1.8m、短軸が1.5m前後で、深さは検出面から最深で0.2mを計測する。埋土は4層から構成されている。遺物は2点ほど出土している。

81は19世紀頃の瀬戸産陶器の碗と思われる破片で、推定口径12.5cm、現存高5.1cmを計測する。82は在地産の焙烙と思われる破片で推定底径が9.6cmを計測するものである。

遺構外出土遺物（第28図　写真図版30）

石器　縄文時代と思われる石器は磨製石斧（105）、石篦（106）、石鏃（107）が出土している。実測図、法量等は明記せず、写真のみの掲載とする。

土師器　1点出土している。83は推定口径15.0cm、推定底径5.4cm、器高5.3cmの坏である。ロクロ成形がなされ、底部は回転糸切り無調整である。内面は黒色処理がなされミガキが施されている。

陶磁器　84、85は在地産の陶器である。84は現存高6.1cmを計測する口縁部の破片であるが、器種ははっきりしない。85は現存高8.8cmを測定する頸部から胴部にかけての破片であるが、器種ははっきりしない。86は平清水産の陶器と思われる破片で、時期は19世紀前葉から中葉にかけてのものと思われる。推定底径が3.8cm、現存高2.6cmの破片である。器種ははっきりしない。87は肥前産の磁器でⅣ期頃に属すると思われる破片である。推定口径11.6cm、推定底径7.1cm、器高2.5cmを計測する色絵の皿である。

Ⅳ　まとめ

1　縄文時代

今回の調査では土坑のみが検出されただけであった。詳細は土坑の項で述べているのでそちらを参照していただきたい。

最近の調査事例から、縄文時代早期末から前期初頭にかけてと思われる遺物や土坑の発見が相次いでいる。これらの遺構や遺物は平野部の微高地状にある遺跡から検出、出土している。残念ながら住居跡は発見されていないが、今後の調査によっては発見される可能性もある。

2　平安時代

竪穴住居跡2棟が検出され、それに伴って土師器の坏、甕、須恵系土器の坏が出土した。時期は出土遺物から伊藤編年のⅡ期後半からⅢ期（10世紀前半）頃と思われる。SI01竪穴住居跡は面積が59.6㎡とこの時期にしては大きく、また排水溝のような施設を持つのがこの竪穴住居跡の特徴であろう。

3　近世

掘立て柱建物跡7棟、井戸跡2基、溝跡3条、水場跡2基、そのほか近世屋敷跡を構成すると思われる遺構7基を確認した。これらすべての遺構から遺物が出土したわけではないが、もし仮に近世の屋敷跡を構成する遺構群と捉えるならば、明治時代以降に廃絶された屋敷跡と考えることができよう。付近の住民からの聞き取り調査では、この屋敷のことは聞き出せなかったが、安永風土記御用書出によると当時の中野村に下植田屋敷との記述が見られる。この下植田屋敷が今回調査した下植田遺跡の近世の遺構群である可能性が非常に高いと思われる。

参考、引用文献

伊藤　博幸　　1998年「後半期の集落」　（『岩手考古学』　岩手考古学会）

大橋　康二　　1989年「肥前陶磁」　（考古学ライブラリー55　　ニューサイエンス社）

羽柴　直人他　　1997年「桑屋遺跡第10・11・13・15次発掘調査報告書――関連水地事業関連遺跡発掘調査―」（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第247集　　（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター）

村上　拓　他　　1999年「板子沢遺跡発掘調査報告書―担い手育成基盤整備事業・徳岡地区関連遺跡発掘調査―」（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第305集　　（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター）

表－1　土坑観察表

土坑番号	平面規模	底面標高	分類	底面小穴有無	小穴底面規模	小穴底面標高	その他、備考
SK01	0.91×0.78	33.840	A－Ⅰ	なし	－	－	
SK02	1.23×1.08	34.308	－	－	－	－	
SK03	0.89×0.87	33.762	A－Ⅰ	なし	－	－	
SK04	0.92×0.82	34.093	A－Ⅱ	1	0.02×0.08	34.009	小穴平面楕円形
SK05	1.35×0.85	34.170	A－Ⅱ	1	0.17×0.11	33.830	小穴平面楕円形
SK06	0.94×0.88	34.665	－	－	－	－	
SK07	1.10×0.84	34.347	C－Ⅱ	1	0.28×0.18	33.904	小穴平面楕円形
SK08	1.91×0.41	0.600	E	なし	－	－	
SK09	1.31×0.90	不明	C－Ⅱ	1	不明	不明	断面実測図なし
SK10	1.47×1.44	33.698	B－1	なし	－	－	底面長方形1.00X0.54
SK11	1.77×1.52	33.788	D－2	2	北直径0.18	北33.455	南0.24×0.11 33.511
SK12	1.66×1.58	33.708	B－2	1	0.24×0.14	33.427	
SK13	長軸1.18	33.910	C－Ⅰ	なし	－	－	
SK14	直径0.64	34.083	－	－	－	－	短軸不明
SK15	1.44×1.44	34.038	－	－	－	－	平面正方形
SK16	2.07×1.33	34.390	D－2	1	0.11×0.09	不明	
SK17	1.79×1.03	34.170	D－2	2	北0.22×0.17	北33.790	南0.29X0.27　34.09
SK18	0.79×0.73	33.640	A－Ⅰ	なし	－	－	
SK19	2.77×0.24	34.110	E	なし	－	－	
SK20	0.73×0.66	34.375	－	－	－	－	
SK21	0.97×0.89	33.920	A－Ⅱ	1	0.34×0.24	33.580	
SK22	1.37×1.08	33.94	B－2	1	0.39×0.29	33.53	
SK24	1.29×0.80	33.929	C－Ⅰ	なし	－	－	
SK25	1.83×1.21	34.000	D－Ⅰ	なし	－	－	
SK26	1.91×1.10	34.010	D－Ⅰ	なし	－	－	
SK27	1.10×0.87	33.973	A－Ⅱ	1	0.17×0.13	33.805	小穴平面楕円形
SK28	3.16×0.34	34.160	E	なし	－	－	
SK30	2.50×0.65	34.190	－	－	－	－	
SK31	3.10×0.47	34.000	E	なし	－	－	底面オーバーハング
SK32	2.36×0.18	34.260	E	なし	－	－	
SK33	(1.25)×(0.80)	33.670	－	不明	－	－	未完掘
SK34	2.12×0.99	33.99	D－Ⅰ	なし	－	－	長軸中央部くびれる
SK35	0.83×0.59	33.808	C－Ⅱ	1	0.14×0.10	33.683	
SK36	1.10×0.90	34.150	A－Ⅱ	1	0.29×0.15	34.055	小穴プラン上に礫あり

※規模・標高はすべてm
※(　)内は推定値

表－2　柱穴観察表

No	構成建物	開口部規模	底面標高	備考
1	ＳＢ01建物跡	26×24cm	不明	
2		4033	34.57m	
3		4543	34.72	
4		2826	34.57	
5		直径49	34.68	
6		7362	34.42	
7		8868	34.39	
8		6562	34.30	
9		6044	34.53	
10		6763	34.58	
11		5653	34.38	
12		5547	不明	
13		3733	35.90	
14		7758	34.36	
15		4237	34.74	
16		3931	34.68	
17		3027	34.76	
18		4228	不明	
19		直径28	34.61	
20		4532	34.70	
21		5041	34.21	
22		6153	34.51	礫あり
23		9993	34.52	
24		7058	34.39	礫あり
25		7964	34.50	
26		6459	34.51	
27		5051	34.34	
28		3533	34.65	
29		4743	34.48	
30		4938	34.65	
31		5137	34.54	
32		6543	34.54	
33		直径39	34.74	
34		不明	不明	多遺構重複
35		4139	34.60	
36		直径33	34.70	
37		3223	34.74	
38		4341	34.76	
39	ＳＢ02建物跡	3732	34.41	
40		5247	34.49	
41		6542	34.58	
42		不明	不明	多遺構重複
43		(4742)	34.54	多遺構重複
44		8046	34.56	
45		直径34	34.78	隅丸方形
46		4337	34.77	
47		4232	34.48	
48		4441	34.53	
49		5443	34.64	
50		6154	34.76	
51		直径70	34.69	隅丸方形
52		4736	34.80	
53		5144	34.52	
54		5248	34.60	隅丸方形
55	ＳＢ03建物跡	直径47	34.52	
56		5246	34.50	
57		6752	34.34	
58		5754	34.22	
59		4427	34.71	
60		3028	34.58	
61		3829	35.68	
62		6441	34.60	
63		6151	34.45	
64		4744	34.37	
65		直径62	34.56	不正円形
66		5140	不明	
67	ＳＢ04建物跡	38×34cm	34.42m	
68		29×22	34.53	礫あり
69		25×20	不明	
70		直径32	不明	
71		直径32	不明	
72		34×26	34.57	
73		44×36	不明	
74		直径36	不明	
75	ＳＢ05建物跡	直径30	不明	
76		直径26	35.00	
77		24×22	34.96	
78		直径31	不明	
79		直径32	不明	
80		直径26	不明	
81		28×23	34.97	
82		24×22	不明	
83		直径24	34.98	
84	ＳＢ06建物跡	38×36	35.76	
85		(49×42)	34.61	多遺構重複
86		直径25	35.81	
87		直径32	35.90	
88		直径30	35.95	
89		38×36	34.63	
90		直径36	35.76	
91		42×34	34.44	
92		36×32	34.61	
93	ＳＢ07建物跡	直径57	34.40	
94		64×51	34.46	
95		66×64	34.58	
96		直径50	34.54	
97		(直径53)	34.36	多遺構重複
98		直径56	34.40	
99		直径58	34.54	
100		66×61	34.36	
101		28×25	34.77	
102		直径32	34.72	
103		30×28	34.72	
104		44×37	34.90	

※(　)内は推定値を示す

表３－土師器観察表

掲載番号	出土地	層位	器種	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調 外面	色調 内面	調整 外面	調整 内面	その他備考
1	ＳＩ01 1号カマド		須恵系坏	(12.4)	(7.4)	3.0	やや緻密	悪	7.5YR8/4浅黄橙色	10YR8/3浅黄橙色	ロクロ	ロクロ	底部回転糸切無調整
2	2号カマド		須恵系坏	(13.2)	(6.0)	4.0	やや緻密	悪	7.5YR8/6浅黄橙色	7.5YR8/8黄橙色	ロクロ	ロクロ	底部回転糸切無調整
3	1号カマド		須恵系坏	14.6	6.2	4.5	緻密	悪	5YR6/3にぶい赤褐色	5YR5/3にぶい赤褐色	ロクロ	ロクロ	底部回転糸切無調整
4		床面付近	土師器坏	(12.2)	6.5	2.9	粗雑	悪	7.5YR7/4にぶい橙色	7.5YR7/4にぶい橙色	ロクロ?	ロクロ?	底部外面削り、器面荒れ
5		埋土	土師器坏	－	7.4	(2.9)	緻密	悪	705YR6/8橙色	黒色処理	不明	不明	底部篦記号、器面荒れ
6		床付近	土師器坏	(15.6)	7.4	5.3	やや緻密	悪	705YR6/6橙色	黒色処理	ロクロ	ミガキ	器面荒れ
7		床付近	土師器坏	(15.2)	5.1	5.2	やや緻密	やや悪	5YR6/4/4にぶい橙色	黒色処理	ロクロ、ヘラナデ	ミガキ	器壁は薄い
8		埋土	土師器坏？	－	4.0	2.5	やや粗雑	悪	7.5YR8/6浅黄橙色	黒色処理	不明	ミガキ	器面荒れ激
9		埋土	須恵系坏？	－	－	5.9	やや緻密	普通	2.5Y6/2灰黄色	5Y6/1灰色	ロクロ	ロクロ	
10		床面付近	土・高台付坏	15.2	(7.4)	5.9	粗雑	悪	5YR6/6橙色	黒色処理	ロクロ	ミガキ	器壁は薄い
11	Ｋ７	埋土	土・高台付坏	16.4	7.3	6.2	緻密	悪	7.5YR6/4にぶい橙色	黒色処理	ロクロ	ミガキ	
12		床面付近	土・小型鉢？	(10.8)	8.3	8.5	粗雑	悪	5YR5/6明赤褐色	10YR6/4にぶい黄橙色	ケズリ?	ユビナデ	底部外面削り?
13		埋土	土師器甕	(21.0)	(9.6)	24.4	粗雑	悪	5YR6/6橙色	5YR5/8明赤褐色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ユビナデ?	内面器面荒れ
14	Ｋ６	埋土	土師器甕	(14.8)	－	(12.3)	粗雑	悪	5YR7/6橙色	5YR7/6橙色	ナデ、ケズリ	ヨコナデ、ユビナデ	器面荒れ
15	Ｋ６	埋土	土師器甕	(12.8)	8.6	14.3	粗雑	悪	2.5Y6/3にぶい橙色	2.5Y6/3にぶい黄色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ユビナデ	底部外面ケズリ
16		埋土	土師器甕	(16.6)	－	(26.8)	粗雑	悪	10YR8/4浅黄橙色	7.5YR7/6橙色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ユビナデ	胴部外面粘土塊付着
17	2号カマド		土師器甕	15.5	－	(13.6)	小礫多含	悪	2.5YR8/4浅黄橙色	7.5YR7/4にぶい橙色	ロクロ、ケズリ	ロクロ、ユビナデ?	器面荒れ
18	2号カマド		土師器甕	20.8	－	(26.3)	小礫多含	悪	5YR6/8橙色	5YR6/8橙色	ケズリ	ナデ	口縁ヨコナデ
19	1号カマド		土師器甕	18.2	－	(19.7)	粗雑	悪	5YR6/6橙色	5YR7/8橙色	ロクロ、ケズリ	ヨコナデ	
20	Ｋ７	埋土	土師器甕	24.1	－	(21.7)	粗雑	やや悪	5YR6/6橙色	2.5Y5/3にぶい褐色	ロクロ、ケズリ	ロクロ	
21		床面付近	土師器甕	(22.8)	－	(22.2)	粗雑	悪	2.5YR6/6橙色	5YR6/8橙色	ロクロ?、ケズリ	ロクロ?ナデ?	器面荒れ激
22		床面付近	土師器甕	－	8.0	(20.3)	粗雑	悪	10YR8/3浅黄橙色	7.5YR6/3にぶい褐色	コビナデ?	ヘラナデ、ユビナデ	器面荒れ激
23	ＳＩ02	埋土	土師器甕？	－	(9.0)	(12.9)	やや粗雑	悪	5YR5/4にぶい赤褐色	7.5YR7/6橙色	ケズリ	ヘラナデ、ユビナデ	
24	Ｋ２	埋土	土師器甕？	－	(10.6)	(5.0)	粗雑	普通	5YR5/6明赤褐色	7.5YR6/6橙色	ケズリ	不明	
83	遺構外		土師器坏	(15.0)	(5.4)	5.3	やや緻密	悪	2.5Y7/2灰黄色	黒色処理	ロクロ	ミガキ	底部回転糸切無調整

※法量の単位は㎝
※（　）内は推定値及び現存高を示す

表－4　陶磁器観察表

掲載番号	出土地	器種	口径	底径	器高	胎土	製作地	年代	その他、備考
25	SD01東西	陶器皿	(12.0)	(4.5)	3.9	明褐灰	肥前	肥前Ⅳ期	
26		陶器皿	－	4.4	(2.2)	灰白	肥前	肥前Ⅳ期	
27		陶器碗	－	4.6	(3.2)	にぶい黄橙	肥前	肥前Ⅳ期	
28		陶器皿	－	8.1	(0.9)	灰白	肥前	肥前Ⅳ期	
29		陶器碗	(11.6)	－	(4.9)	灰白	肥前	肥前Ⅳ期	色絵
30		陶器碗	－	4.1	(3.8)	褐灰	大堀相馬	18C	
31		陶器皿	－	(4.3)	(1.6)	灰白	大堀相馬	18C	
32		不明	－	－	(3.2)	明褐灰	大堀相馬	18C後	陶器
33		陶器蓋	－	－	(1.7)	にぶい黄橙	大堀相馬	19C前~中	蓋部最大径14.3
34		磁器?小坏	－	－	(4.2)	灰褐	瀬戸	19C前~中	
35		陶胎染付碗	－	(6.8)	(4.0)	にぶい黄橙	瀬戸	19C前	
36		陶胎染付碗	－	－	(4.1)	にぶい黄橙	瀬戸	19C前	
37		陶器?碗	(10.8)	－	(5.5)	灰白	瀬戸美濃	18C前	
38		陶器?甕	(16.9)	－	(13.4)	灰白	在地	19~20C	
39		陶器?鉢	－	(11.4)	(5.5)	灰	在地	不明	
40		陶器?香炉?	(8.7)	－	(5.5)	にぶい黄	在地	不明	
41		灯明皿	8.0	5.1	1.8	橙	在地	不明	素焼き
43	ＳＥ01	磁器小坏	6.7	7.1	4.8	灰白	肥前	肥前Ⅳ期前	
44		陶器?香炉	(11.9)	－	7.6	灰黄	瀬戸	18C	
45		陶器皿	(11.6)	4.3	3.5	にぶい黄橙	肥前	肥前Ⅳ期	
46	ＳＸ01	陶器皿	13.4	6.8	2.9	灰白	肥前	肥前Ⅳ期	
47		陶器皿	13.1	6.8	3.1	灰白	肥前	肥前Ⅳ期	
48		磁器小坏	(6.7)	3.8	5.3	灰白	肥前	肥前Ⅳ期前	
49		磁器徳利	－	(7.0)	(2.6)	黄灰	肥前	肥前Ⅳ期	
50		瓶	－	4.8	(11.2)	灰白	在地	不明	
51		不明	3.0	10.0	(6.4)	橙	在地	不明	
52		焙烙	(5.5)	－	(2.5)	黄橙	在地	不明	
53		不明	－	－	(2.3)	褐灰	在地	不明	
54		不明	－	－	(2.9)	灰褐	在地	不明	
55		不明	－	－	(6.0)	橙	在地	不明	
56		碗	－	－	(6.1)	灰白	平清水	不明	
57		擂鉢	－	(13.7)	(4.3)	灰白	瀬戸美濃	18C後	
58		磁器?鉢?	－	(3.8)	(2.2)	灰褐	瀬戸	19C前	
59		碗	(10.4)	(3.4)	5.1	灰褐	不明	明治以降	
63	ＳＸ02	陶器碗	11.1	4.5	7.7	灰白	肥前	肥前Ⅳ期前	
64		磁器皿	－	4.7	1.7	灰白	肥前	肥前Ⅳ期	
65		磁器皿	(13.9)	(8.1)	3.1	灰白	肥前	肥前Ⅳ期	
66		擂鉢	－	(12.6)	(4.5)	灰褐	在地	不明	
67		磁器?小鉢	(11.2)	4.7	4.9	灰白	瀬戸	19C前	
68	ＳＸ03	陶器碗	(10.7)	－	(3.9)	灰白	大堀相馬	18C	
69	ＳＸ04	磁器皿	(9.7)	(5.9)	2.7	灰白	肥前	肥前Ⅳ期	
70		磁器碗	－	4.1	(3.1)	灰白	肥前	肥前Ⅳ期	
71		磁器皿	－	7.8	(2.1)	灰白	肥前	肥前Ⅳ期	
72		磁器?碗	－	3.4	(2.2)	灰白	肥前	肥前Ⅳ~Ⅴ期	
73		磁器蓋	(8.7)	－	(1.8)	灰白	肥前	肥前Ⅳ~Ⅴ期	
74		仏飯器	6.0	4.7	5.2	灰白	大堀相馬	19C前~中	
75		陶器皿	－	5.0	1.7	灰白	大堀相馬	18C	
76		陶器皿	－	4.8	(1.9)	明褐灰	大堀相馬	18C後半	
77		蓋	－	4.5	(2.1)	赤褐	在地	不明	
78		小坏?	6.7	－	(4.2)	灰白	不明	明治以降	
79		鉢	－	(8.3)	(5.1)	灰白	不明	明治以降	
80		甕	(55.8)	－	(4.7)	赤褐	常滑	19C後~20C	
81	ＳＸ07	陶器碗?	(12.5)	－	(5.1)	にぶい黄橙	瀬戸	19C前	
82		焙烙	－	(9.6)	(0.5)	橙	在地	不明	
84	遺構外	不明	－	－	(6.1)	灰黄褐	在地	不明	
85		不明	－	－	(8.8)	黄灰	在地	不明	
86		不明	－	3.8	(2.5)	灰白	平清水	19C前~中	
87		陶器皿	(11.6)	(7.1)	2.5	灰白	肥前	肥前Ⅳ期?	色絵

※法量の単位はすべてcm

※(　)内は推定値及び現存高を示す

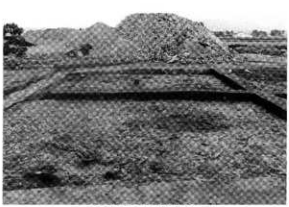
写　真　図　版

東から

上空から

写真図版１　遺跡全景写真

全　景



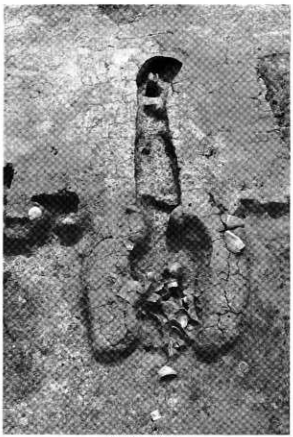
南北断面（北側）

南北断面（南側）

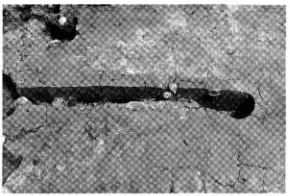
東西断面（西側）

東西断面（東側）

写真図版２　ＳＩ０１竪穴住居跡（１）

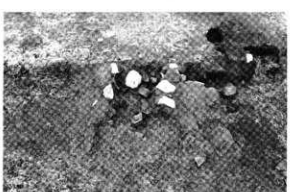


1号カマド全景



煙道部断面

カマド燃焼部埋土断面



2号カマド全景

1号カマド袖断ち割り

2号カマド袖断ち割り（1）

2号カマド袖断ち割り（2）

写真図版3　S I 0 1竪穴住居跡（2）

ＳＩ０１内Ｋ７遺物出土状況

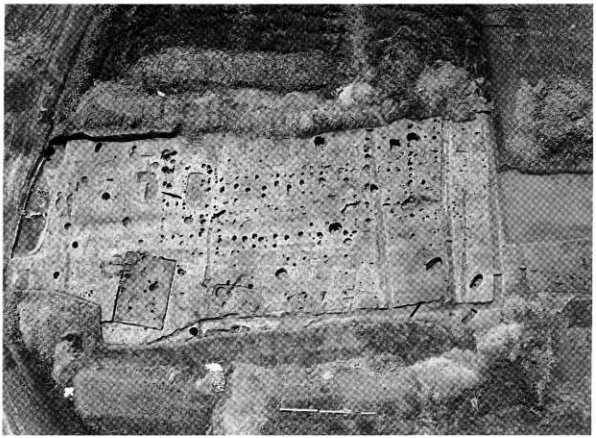
ＳＩ０１排水溝？埋土断面

ＳＩ０２竪穴住居跡全景

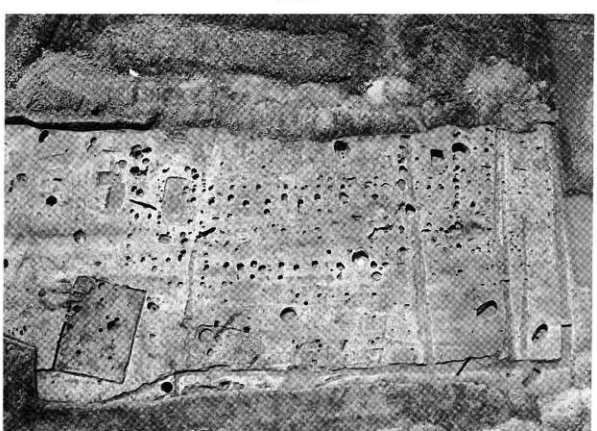
ＳＩ０２内土坑遺物出土状況

ＳＩ０２カマド？全景

写真図版４　ＳＩ０１・０２竪穴住居跡

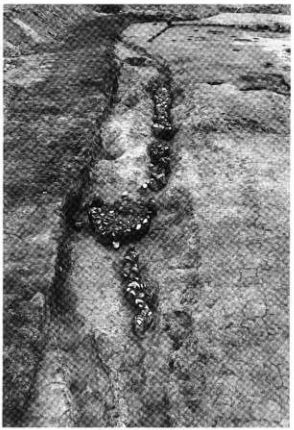


北から

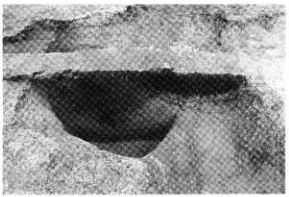


SB01～07全景

写真図版5　近世遺構群全景



SD01東西溝跡



SD01東西溝（右側）埋土断面

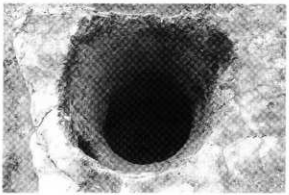
SD01 b－b′埋土断面

c－c′埋土断面

SD01a－a′埋土断面

SE01全景

写真図版6　SD01溝跡、SE01井戸跡



SE02全景

SE02埋土断面

SX01全景

SX01南北（a－a′）埋土断面

SX01東西（b－b′）埋土断面

写真図版7　SE02井戸跡、SX01水場跡

SX01　礫積み

SX01　02全景

SX02埋土断面（a－a'）

写真図版8　SX01、02水場跡

全景

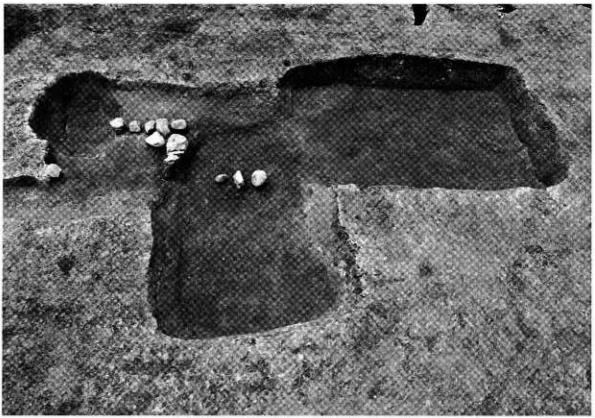
埋土断面

写真図版9　SX03

全景

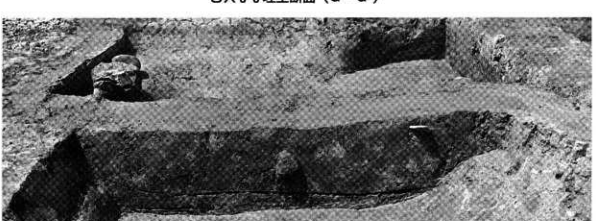
埋土断面

写真図版10　SX04



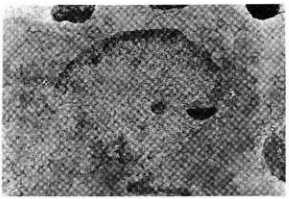
SX05、06全景（上部がSX05）

SX05埋土断面（a－a′）

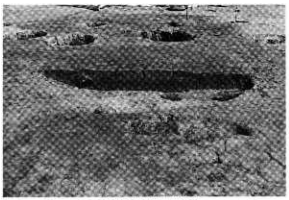


SX06埋土断面（b－b′）

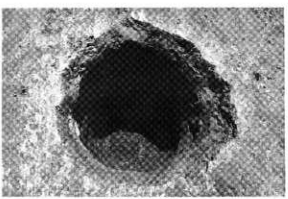
写真図版11　SX05、06



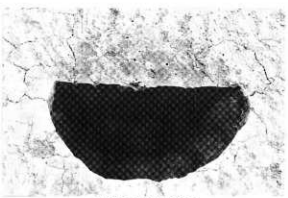
SX07全景



SX07埋土断面

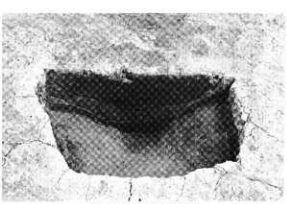


SK01全景



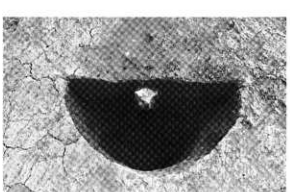
SK01埋土断面

SK02全景



SK02埋土断面

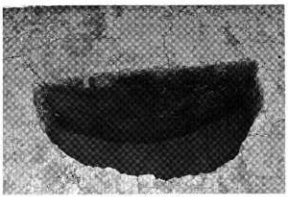
SK03全景



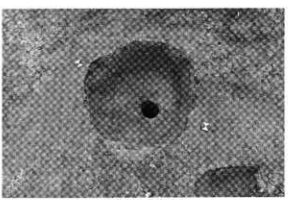
SK02埋土断面

写真図版12　SX07、SK01～03土坑

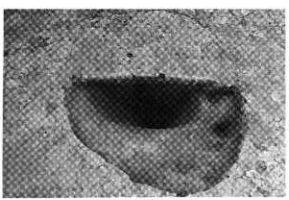
SK04全景



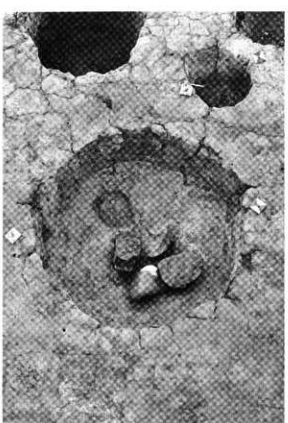
SK04埋土断面



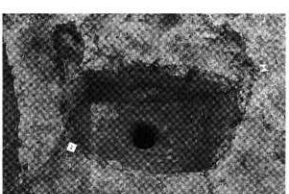
SK05全景



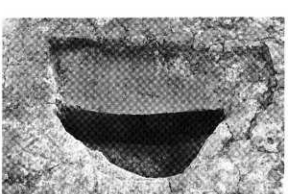
SK05埋土断面



SK06全景

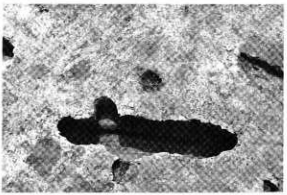


SK07全景

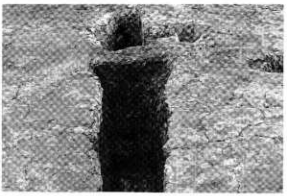


SK07埋土断面

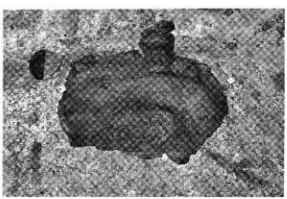
写真図版13　SK04～07土坑



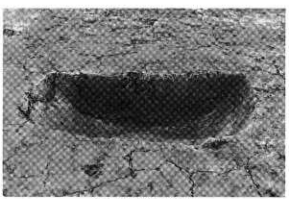
SK08全景



SK08埋土断面



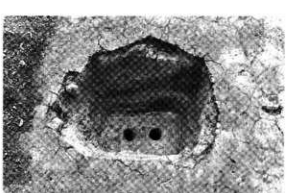
SK09全景



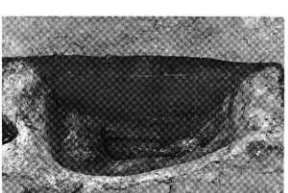
SK09埋土断面

SK10全景

SK10埋土断面

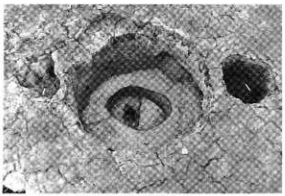


SK11全景

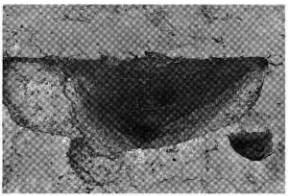


SK11埋土断面

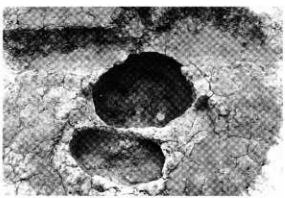
写真図版14　SK08～11土坑



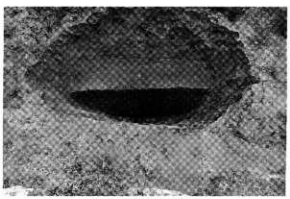
SK１２全景



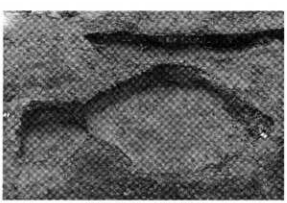
SK１２埋土断面



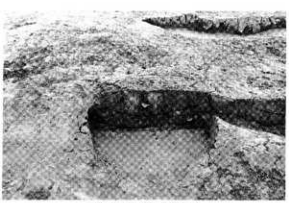
SK１３全景



SK１３埋土断面



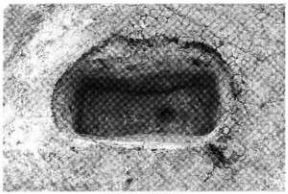
SK１４、１５全景



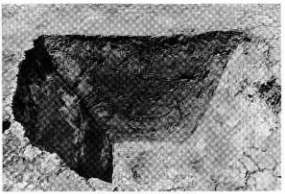
SK１４埋土断面

SK１５埋土断面

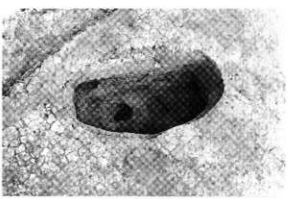
写真図版15　SK１２～１５土坑



SK16全景



SK16埋土断面

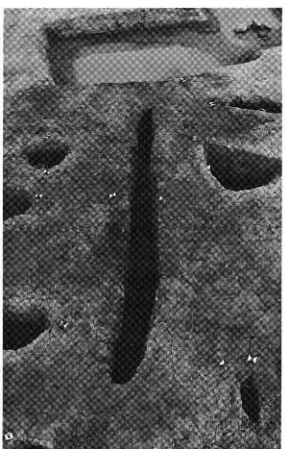


SK17全景

SK17埋土断面

SK18全景

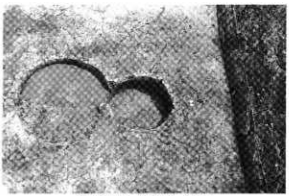
SK18埋土断面



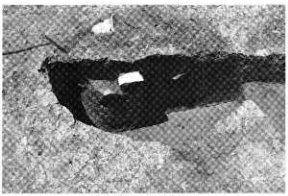
SK19全景

SK19埋土断面

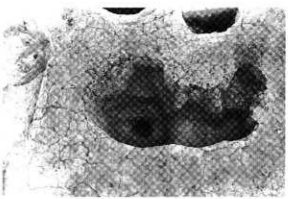
写真図版16　SK16～19土坑



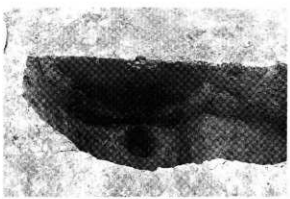
SK２０（右側）全景



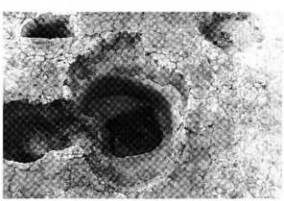
SK２０埋土断面



SK２１全景

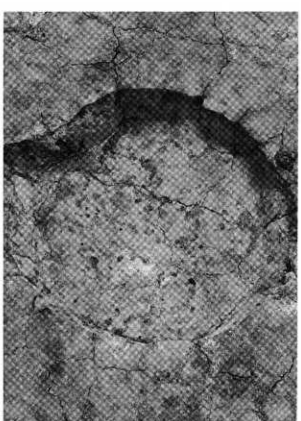


SK２１埋土断面



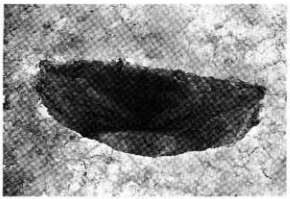
SK２２全景

SK２２埋土断面

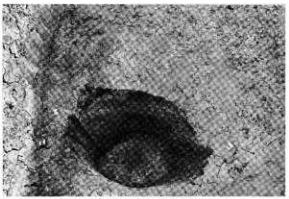


SK２３全景

写真図版17　SK２０～２３土坑



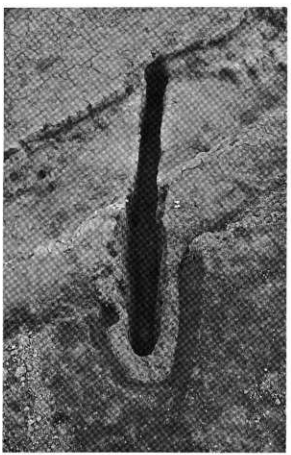
SK２４全景



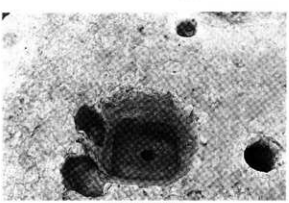
SK２４埋土断面

SK２５全景

SK２５埋土断面



SK２８全景

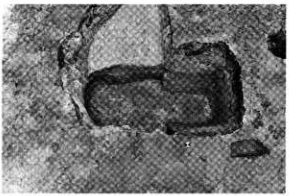


SK２７全景

SK２７埋土断面

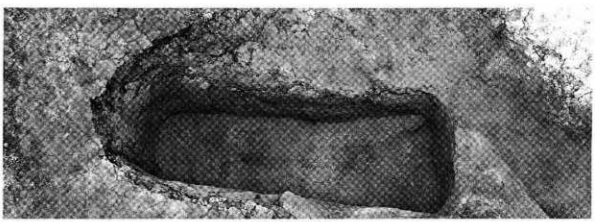
SK２８埋土断面

写真図版18　SK２４、２５、２７、２８土坑

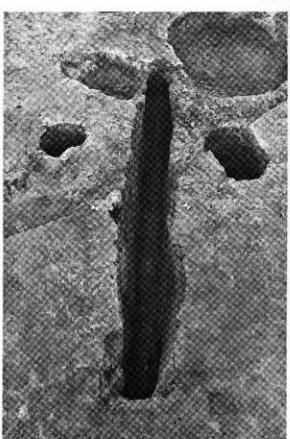


SK２６全景

SK２６埋土断面



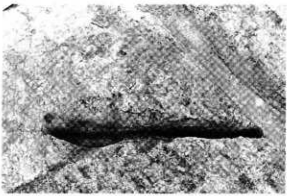
SK３０全景



SK３１全景

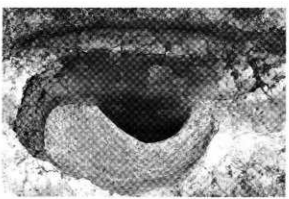
SK３１埋土断面

写真図版19　SK２６、３０、３１土坑

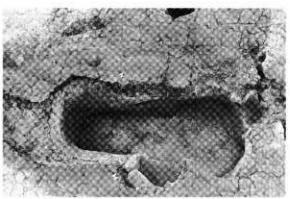


SK３２全景

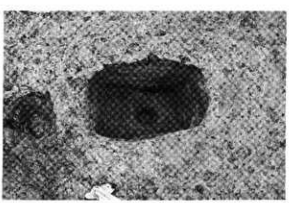
SK３２埋土断面



SK３３全景

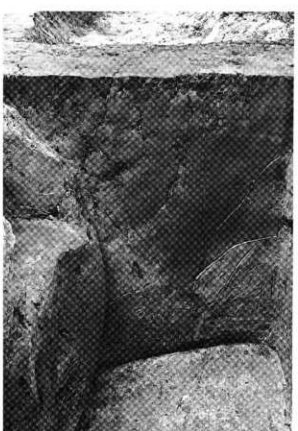


SK３４全景



SK３５全景

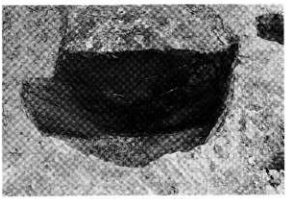
SK３５埋土断面



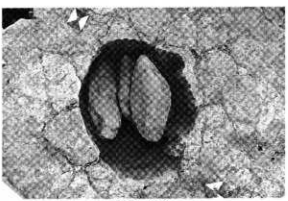
SK３４埋土断面

写真図版20　SK３２～３４土坑

SK３６全景



SK３６埋土断面



柱穴（1）

柱穴（2）

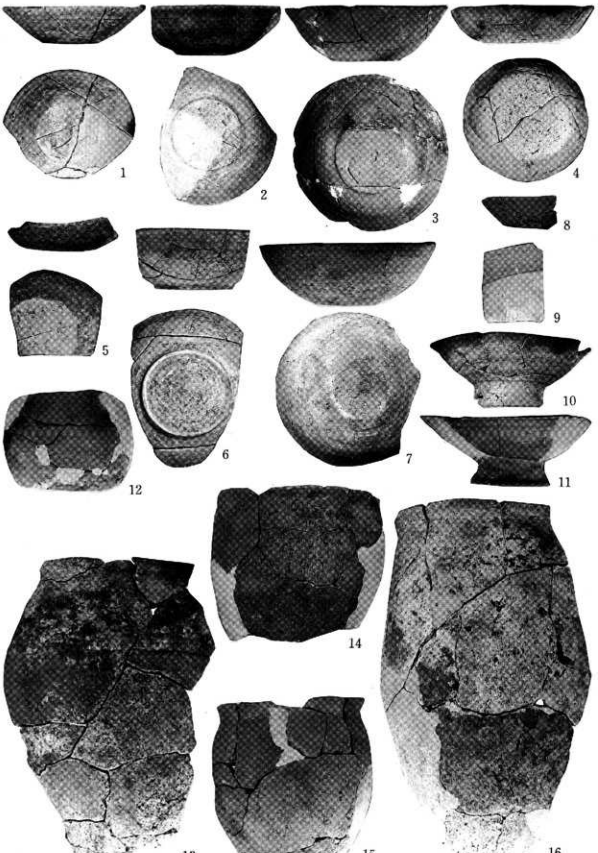
遺構外遺物出土状況

作業風景（1）

作業風景（2）

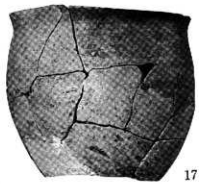
作業風景（3）

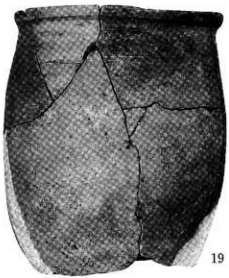
写真図版21　SK３６土坑



SI01

写真図版22　出土遺物（1）


17


19

18

21

22

20

SI01

SI02

写真図版23　出土遺物（2）

肥前磁器皿（大橋Ⅳ期）

肥前陶器（大橋Ⅳ期）

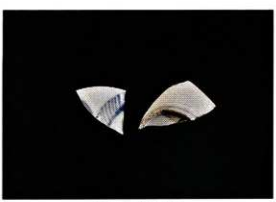
写真図版24　出土遺物（3）

肥前色絵

肥前磁器（18C～19C）

肥前磁器　小坏

瀬戸磁器？19C



瀬戸19C前

瀬戸陶器

大堀相馬18C後

大畑相馬19C

写真図版25　出土遺物（4）

大堀相馬陶器（1）18C

大堀相馬陶器（2）18C

写真図版26　出土遺物（5）

在地産

在地産

在地産

在地産

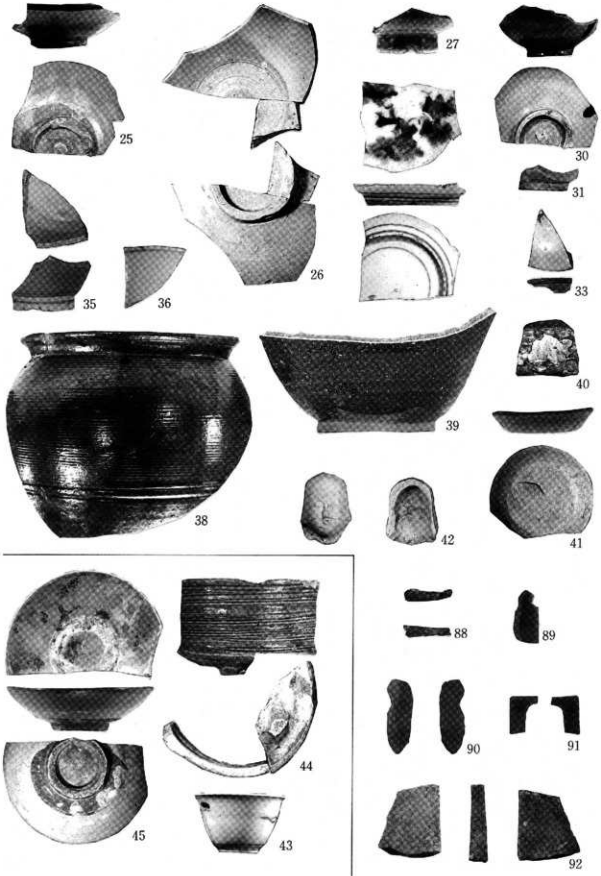
常滑産

仏形？土製品

ガラス製品

産地不明　明治以降

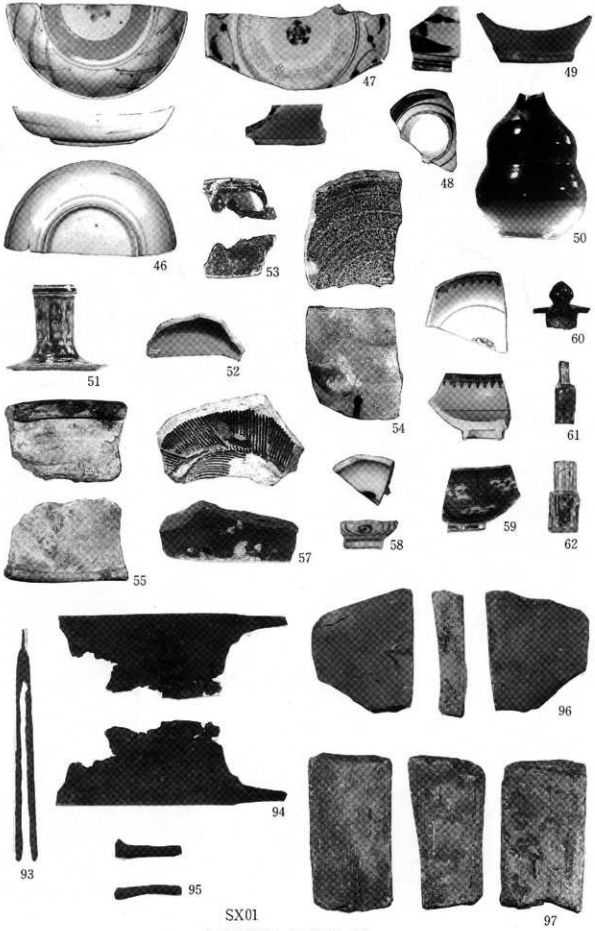
写真図版27　出土遺物（6）



SE01 井戸跡

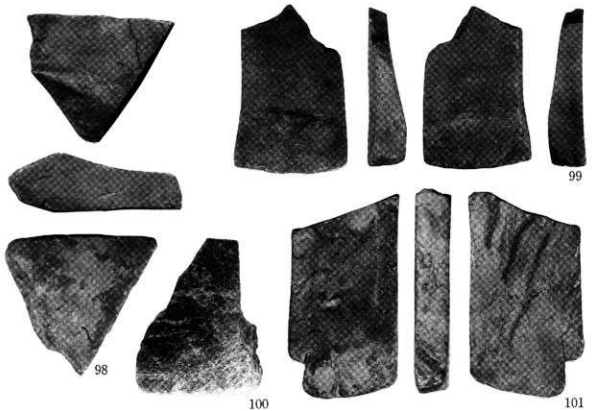
SD01 東西溝跡

写真図版28　出土遺物（7）

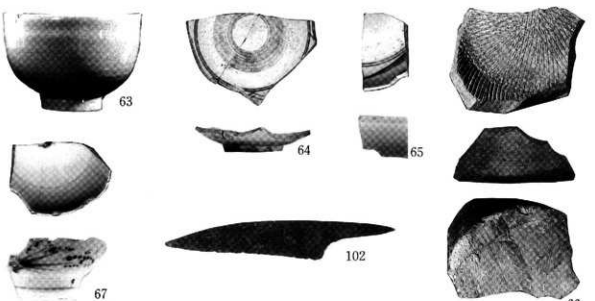


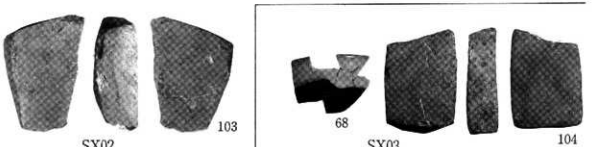
SX01

写真図版29　出土遺物（8）



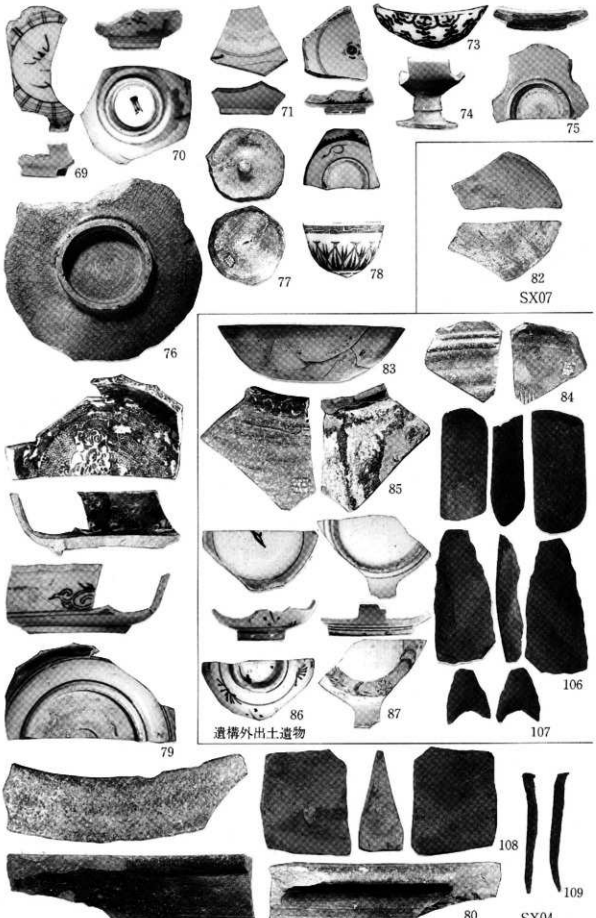
SX01



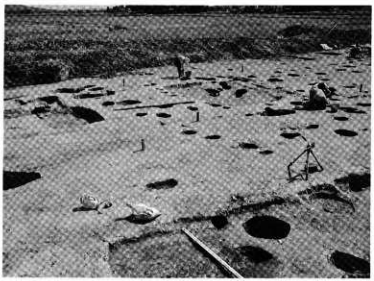


SX02　　SX03

写真図版30　出土遺物（9）



写真図版31　出土遺物(10)



写真図版32　作業風景

報 告 書 抄 録

ふ り が な	しもうえたいせき
書　　名	下 植 田 遺 跡
副　書　名	農林漁業用揮発税財源身替農道整備事業に伴う緊急発掘調査
巻　　次	1
シ リ ー ズ 名	水沢市埋蔵文化財調査センター調査報告書
シリーズ番号	第１４集
編 著 者 名	佐藤良和
編 集 機 関	(財)水沢市文化振興財団　水沢市埋蔵文化財調査センター
所　在　地	023-0003　岩手県水沢市佐倉河字九蔵田96-1　ＴＥＬ 0197-22-4400
発行年月日	西暦2000年３月23日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所　在　地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
下植田遺跡 (しもうえたいせき)	真城字下植田地内 (しんじょうあざしもうえた)(ちない)	03204	NE37-110	39°05′44″	141°9′53″	19990413 19990618	1,500	道路建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
下植田遺跡	集　落　跡	縄文時代 平安時代 近世	竪穴住居跡　２棟 溝跡　３条 井戸跡　２基 土坑跡　35基 近世墓　１基	縄文土器 石器 土師器 須恵器 近世陶磁器 砥石	近世屋敷跡のほぼ中心部を調査

水沢市埋蔵文化財調査センター調査報告書　第14集

下 植 田 遺 跡

平成12年３月23日　発行

編集／発行　財団法人　水沢市文化振興財団
水沢市埋蔵文化財調査センター
〒023-0003 水沢市佐倉河字九蔵田96-1
電　話　0197-22-4400
ＦＡＸ　0197-22-4600

印　　刷　鈴木印刷株式会社
〒023-0001 江刺市岩谷堂字松長根15-5
電　話　0197-35-4515
ＦＡＸ　0197-35-4518